

4 地域活動、ボランティア活動について

(1) 地域行事等への参加 (問 26)

問 26 この1年間で、あなたは、防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に参加しましたか。
(○は1つだけ)

要点

「参加したことがない」という割合が34.6%と最も多くなっていますが、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」の割合は合わせて43.7%を占めています。

全体

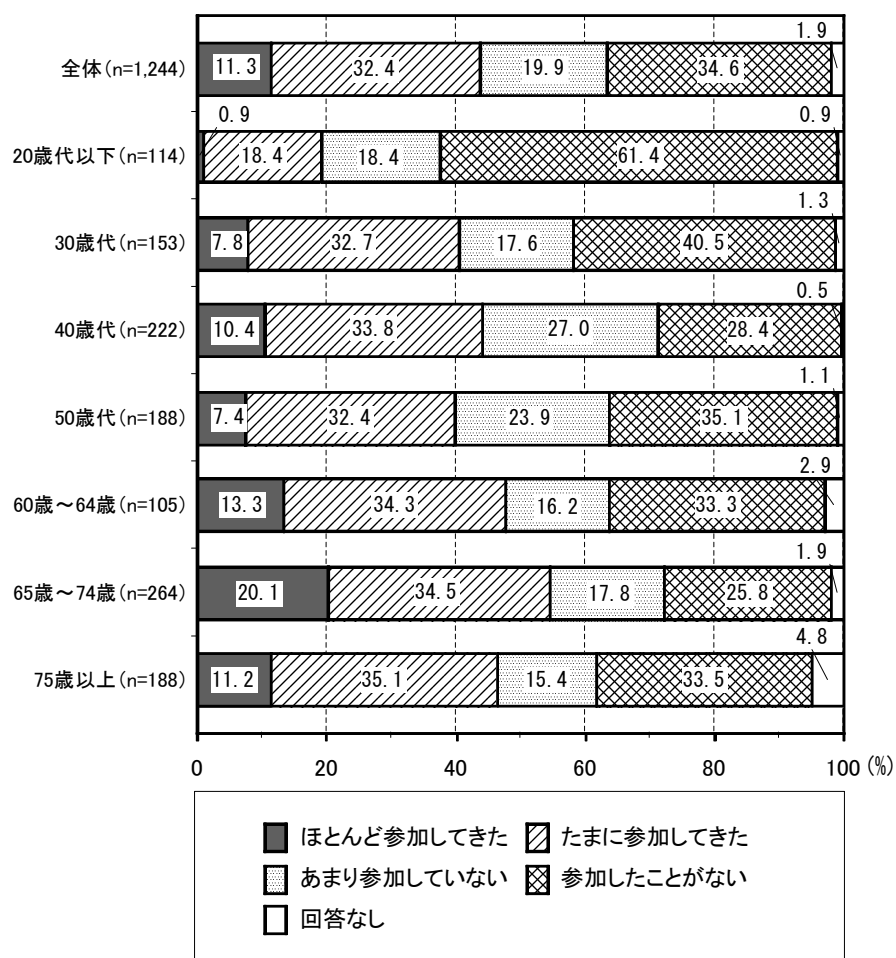
○この1年間で防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に「参加したことがない」という割合が34.6%と最も多く、「あまり参加できていない」(19.9%)と合わせると54.5%で過半数を占めています。

○一方、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」の割合は、それぞれ11.3%、32.4%で合わせて43.7%を占めています(図4-1-1)。

年齢別

○20歳代以下で「参加したことがない」の割合が61.4%を占め目立って多くなっていること、30歳代でも「参加したことがない」の割合が40.5%と若干多くなっていることが特徴としてみられます。また、65～74歳で「ほとんど参加してきた」の割合が20.1%と他の年齢層に比べて多くなっていることが特徴としてみられます(図4-1-1)。

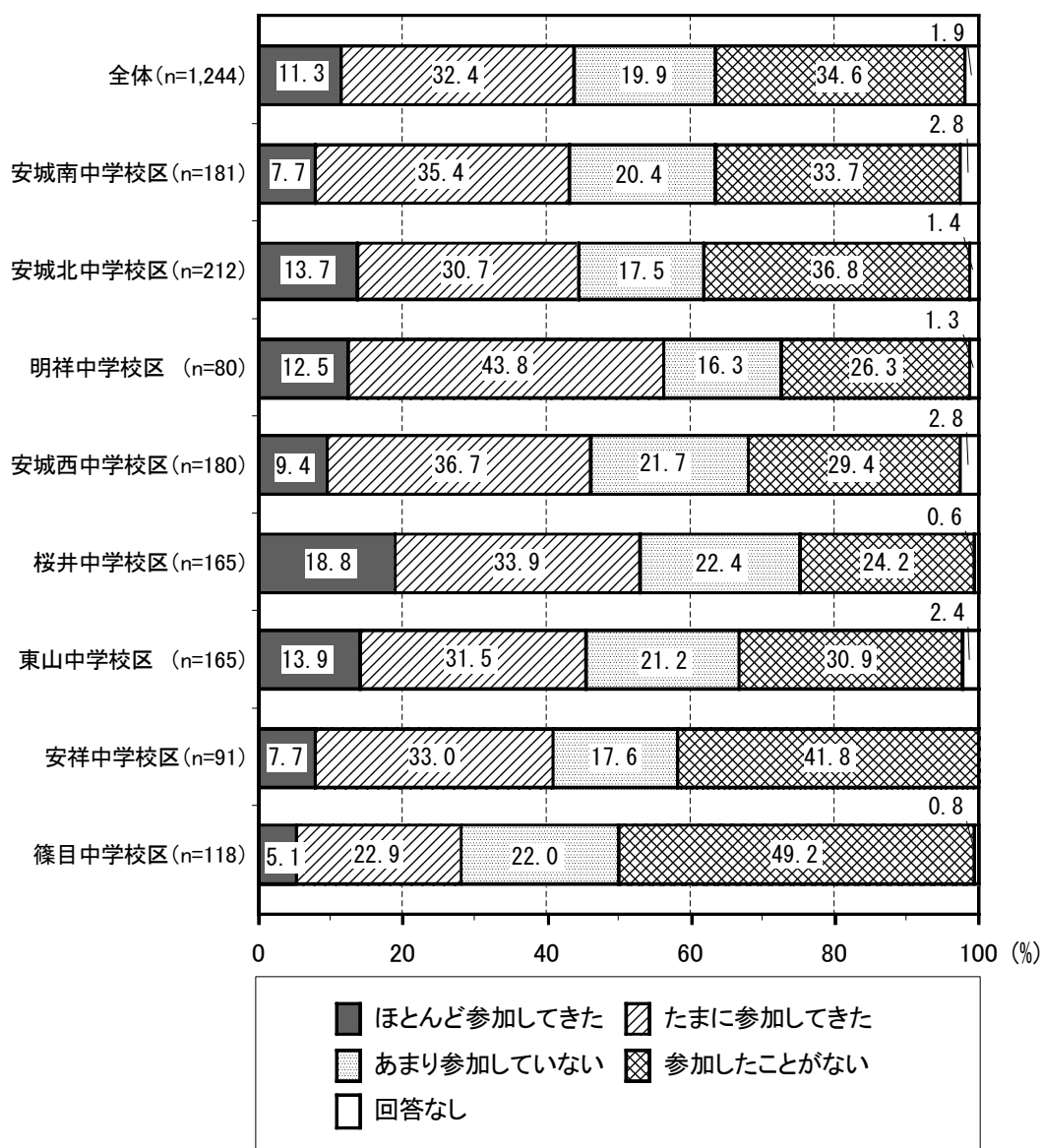
図4-1-1 年齢別「地域行事等への参加」



○明祥中学校区と桜井中学校区において、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が、それぞれ 56.3%、52.7%を占め多くなっています。また、桜井中学校区では、「ほとんど参加してきた」の割合が 18.8%を占め、8 中学校区の中で一番多くなっています。

○一方、篠目中学校区では、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が 28.0%と全体値を大きく下回っています。その分、「参加したことがない」の割合が 49.2%を占め目立って多くなっています。「参加したことがない」の割合は、安祥中学校区（41.8%）でも若干多くなっています（図 4-1-2）。

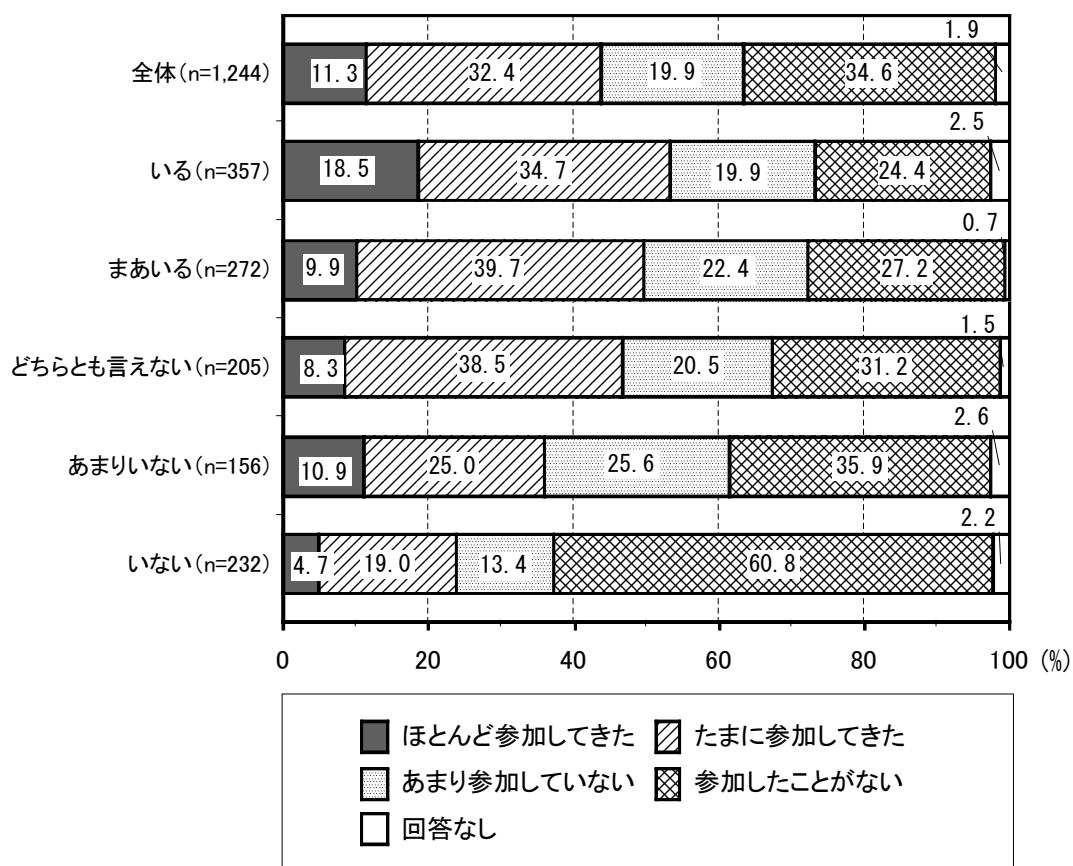
図 4-1-2 中学校区別「地域行事等への参加」



○困ったときに頼りになる知人・友人が近所にいない人ほど「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が少なくなる傾向が顕著にみられます。

○困ったときに頼りになる知人・友人が近所に「いない」という人では、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合は 23.7%と少ない一方で、「参加したことがない」が 60.8%も占めています（図 4-1-3）。

図 4-1-3 頼りになる知人・友人（近所）別「地域行事等への参加」



(2) 参加している活動団体の行事（問 26-1）

問 26-1 どの活動団体の行事などに参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

要点

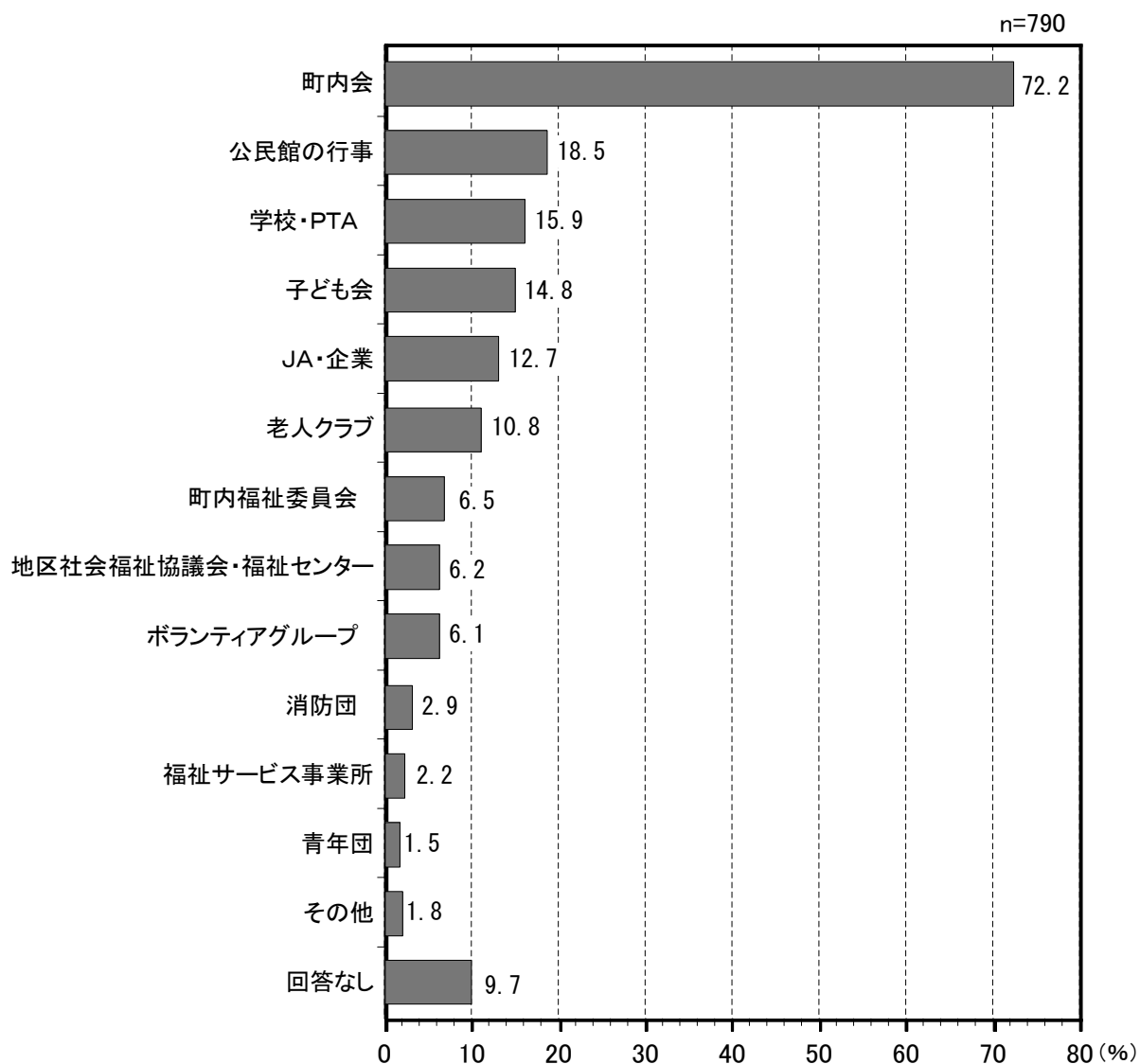
「町内会」の行事等（72.2%）が最も多くなっています。

全体

○問 26 で「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」、「あまり参加していない」のいずれかを回答した人 790 人に対して参加したことがある活動団体の行事等を尋ねたところ、「町内会」の行事等が 72.2%と他の団体を大きな差をつける形で最も多くなっています。

○「町内会」に次いで、公民館の行事（18.5%）や「学校・PTA」（15.9%）、「子ども会」（14.8%）、「JA・企業」（12.7%）、「老人クラブ」（10.8%）が多くなっています（図 4-2-1）。

図 4-2-1 「参加している活動団体の行事」



(3) 地域福祉活動等への関わり (問 27)

問 27 現在、あなたは、次の (ア) ～ (サ) のような地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に関わっていますか。また、今後関わっていききたいですか。(ア) ～ (サ) の項目それぞれについて、1～6 の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

要点

「若者の引きこもりの問題」などこれまでは関わりのある人が少なかった活動であっても、「これまで参加せずー今後は関わってみたい」といった潜在的な参加者はかなりの数です。こうした潜在的な参加者をいかに顕在化していくかが課題です。

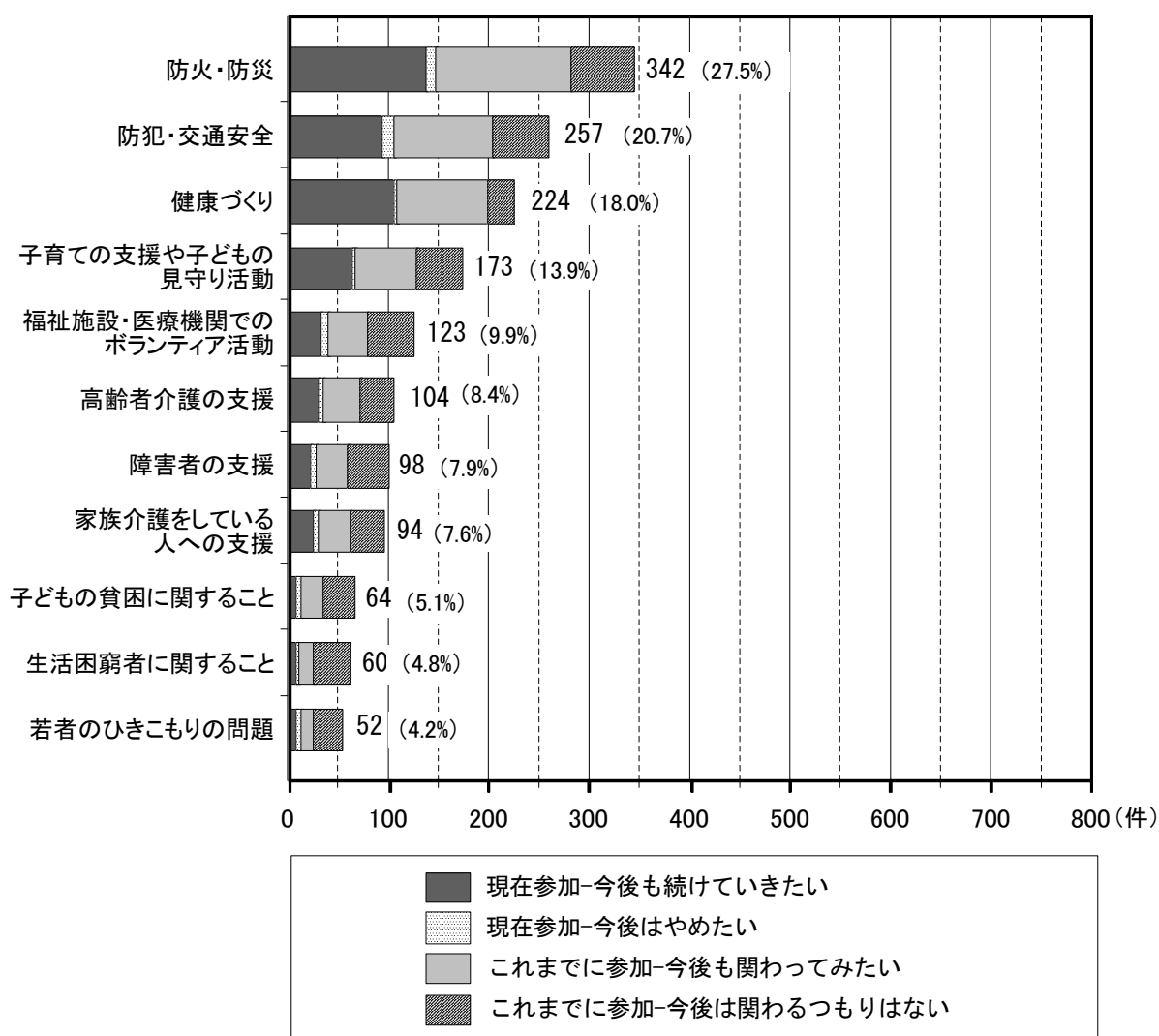
全体

【現在参加している・これまで参加したことがある地域福祉活動】

○最も多いのは、「防火・防災」で 342 人 (27.5%) となっています。次いで多いのは、「防犯・交通安全」(257 人、20.7%)、「健康づくり」(224 人、18.0%)、「子育ての支援や子どもの見守り活動」(173 人、13.9%) となっています。

○一方、近年課題になっている「若者の引きこもりの問題」(52 人、4.2%) や「生活者に関すること」(60 人、4.8%)、「子どもの貧困に関すること」(64 人、5.1%) に参加したことがある人は限られています (図 4-3-1、図 4-3-3)。

図 4-3-1 「地域福祉活動等への関わり (現在参加している・これまで参加したことがある活動)」



【今後も参加する・今後は参加する地域福祉活動】

○最も多いのは、「健康づくり」で 650 人（52.3%）となっています。次いで多いのは、「防火・防災」（610 人、49.0%）、「防犯・交通安全」（553 人、44.5%）、「子育ての支援や子どもの見守り活動」（486 人、39.1%）となっています。

○いずれの地域福祉活動も「これまで参加せず-今後は関わってみたい」といった潜在的な参加者はかなりの数（割合）になっています。

○そして、近年課題になっている「子どもの貧困に関すること」（345 人、27.7%）や「生活困窮者に関すること」（235 人、18.9%）、「若者の引きこもりの問題」（245 人、19.7%）に参加したい・関わってみたいという人はかなりの数になっています（図 4-3-2、図 4-3-3）。

図 4-3-2 「地域福祉活動等への関わり（今後も参加する・今後は参加する活動）」

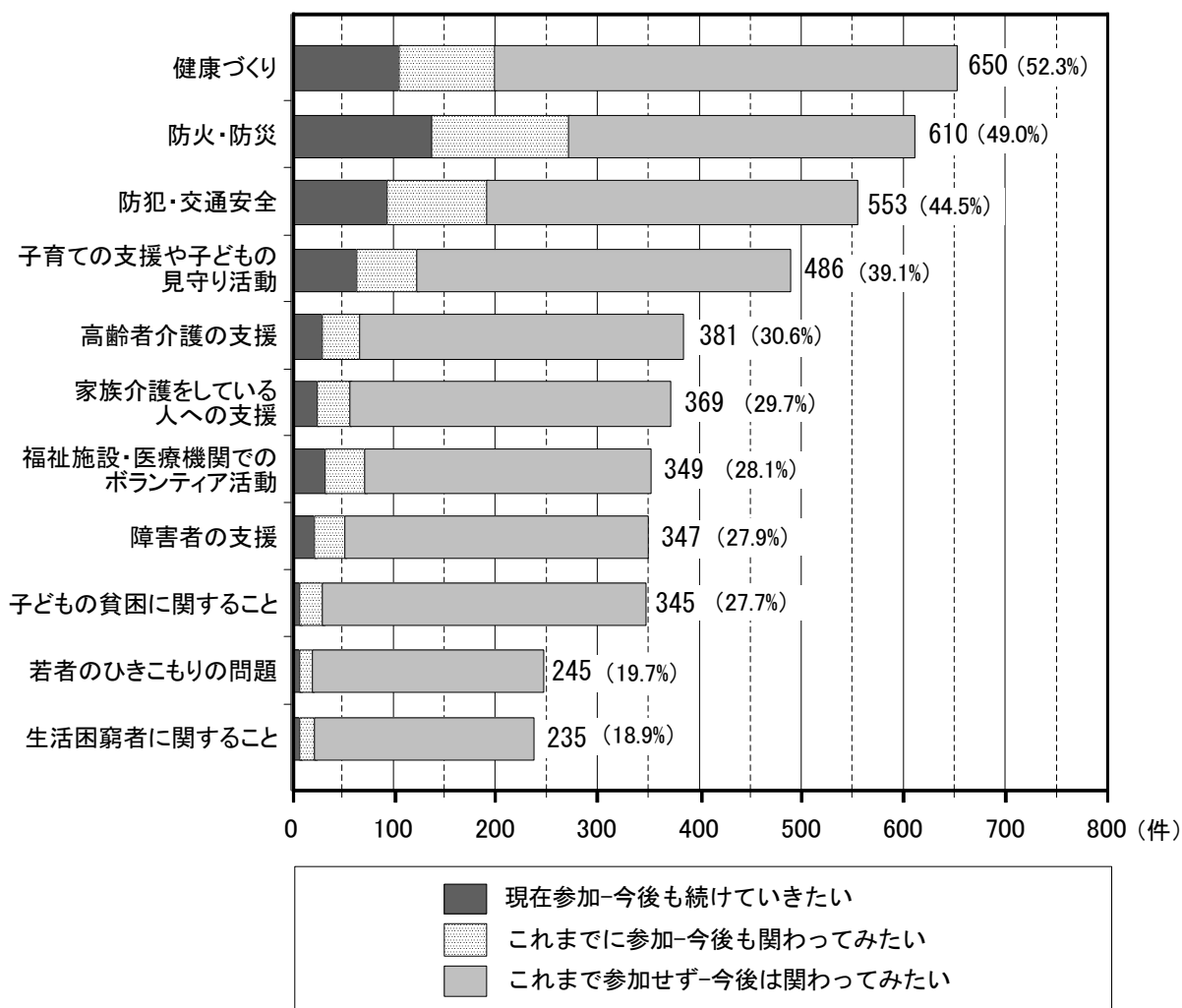
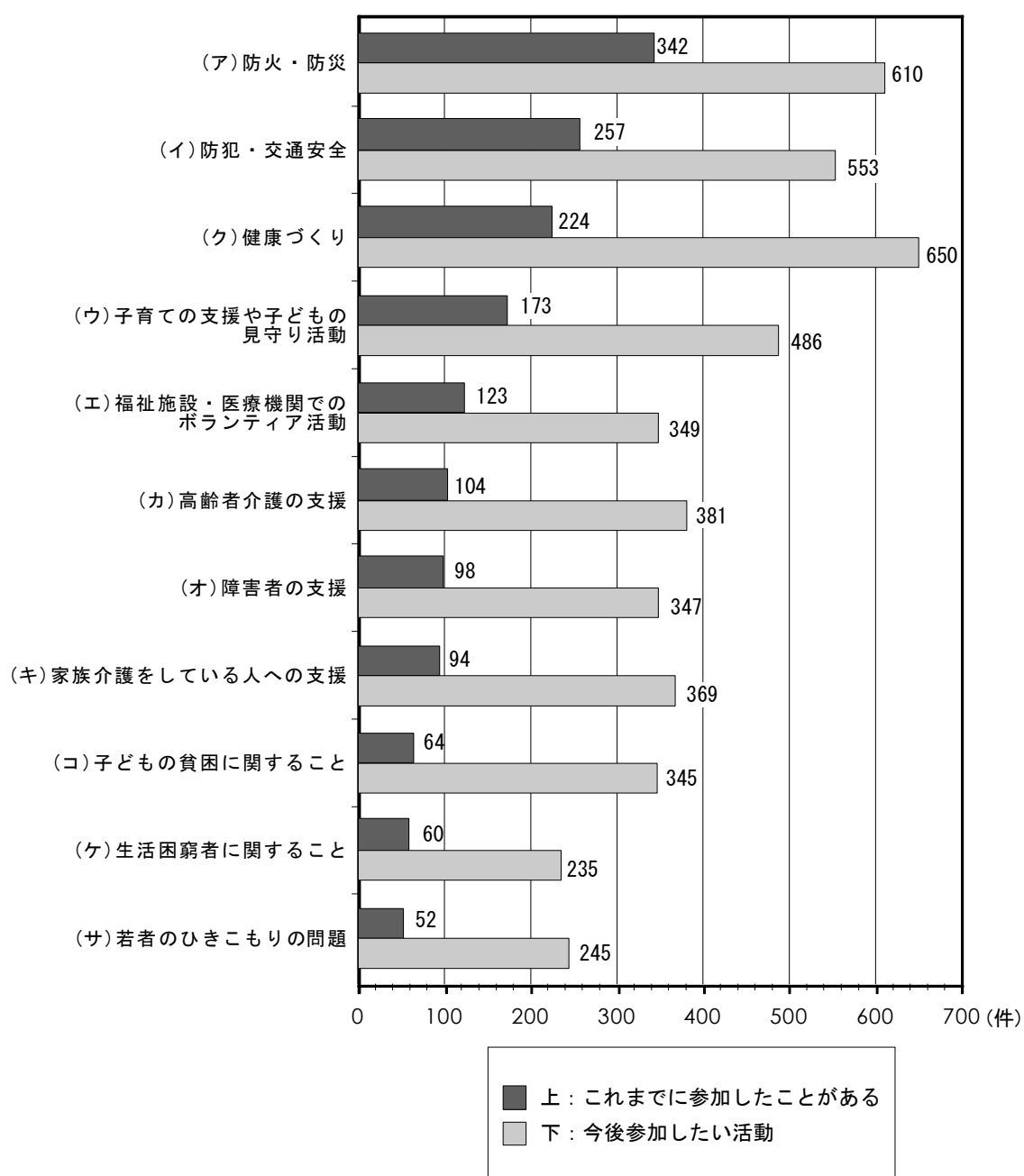


図 4-3-3 これまで参加したことがある活動と今後も（今後は）参加したい活動の比較



（４）地域福祉活動等への参加意向（問 27- 1）

問 27- 1 今後どのような条件が整えば、町内会等による地域福祉活動やボランティアNPO等の活動に参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

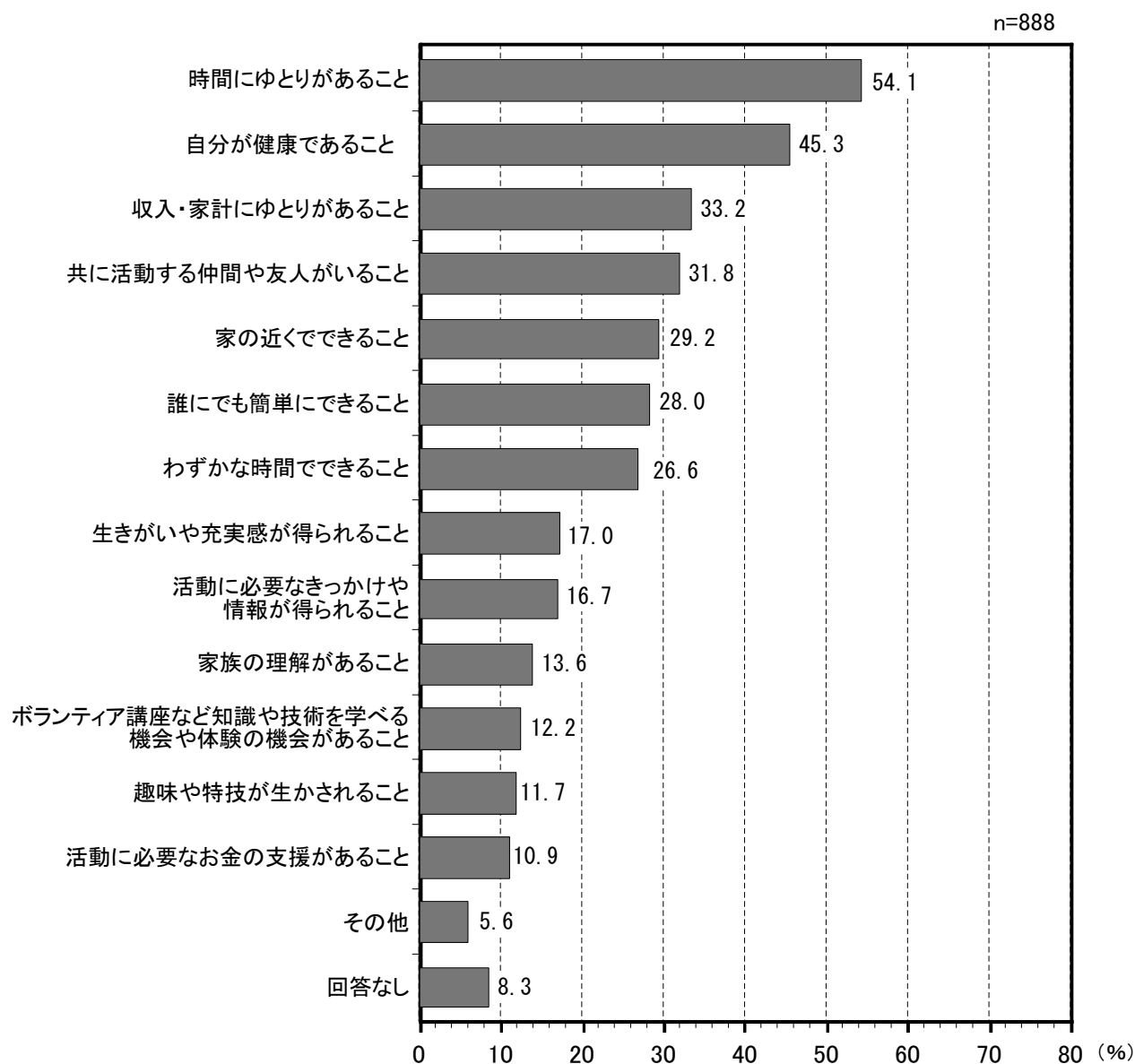
要点

「時間にゆとりがあること」の割合が 54.1%と最も多くなっています。次いで「自分が健康であること」（45.3%）、「収入・家計にゆとりがあること」（33.2%）、「共に活動する仲間や友人がいること」（31.8%）の割合が多くなっています。

全体

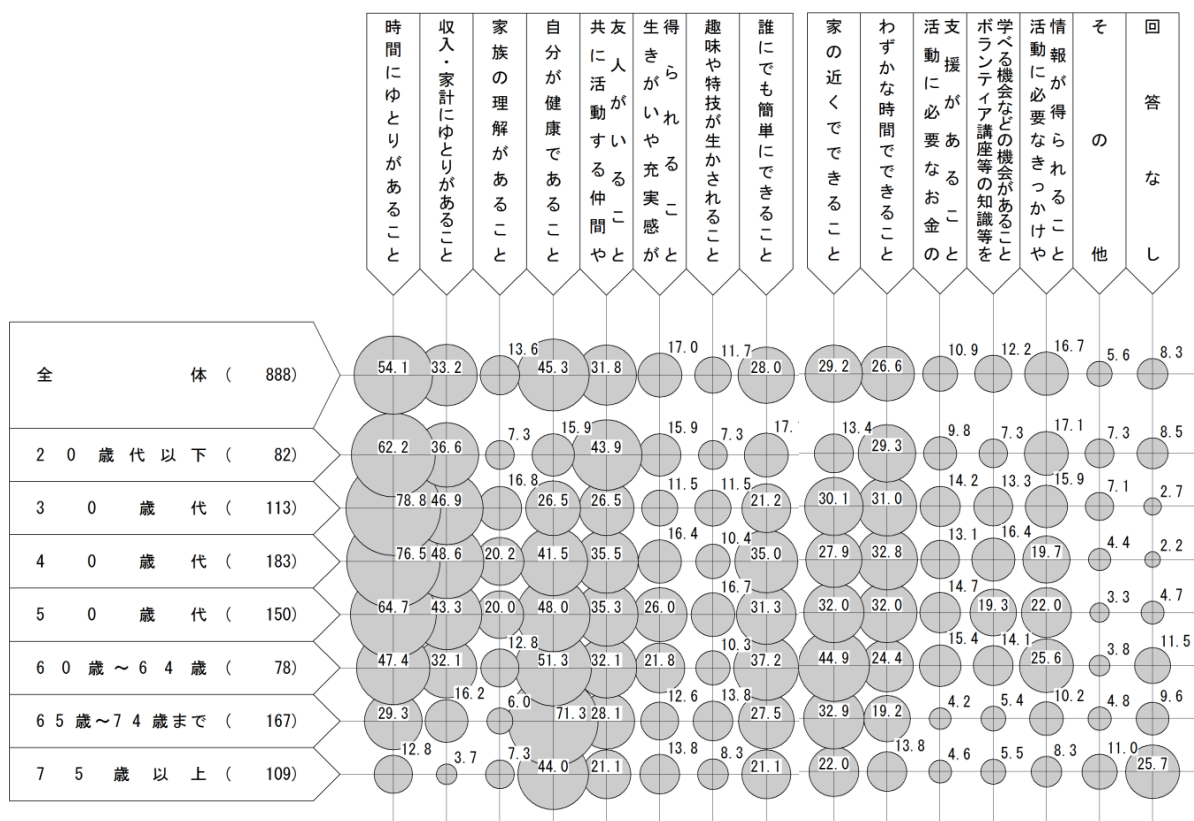
○「時間にゆとりがあること」の割合が 54.1%と最も多く、次いで「自分が健康であること」の割合が 45.3%、「収入・家計にゆとりがあること」の割合が 33.2%、「共に活動する仲間や友人がいること」の割合が 31.8%となっています（図 4-4-1）。

図 4-4-1 「地域福祉活動等への参加意向」



- 「時間にゆとりがあること」の割合は、30 歳代（78.8%）や 40 歳代（76.5%）、50 歳代（64.7%）といった働き盛りの世代で多くなっています。また、「収入・家計にゆとりがあること」の割合についても同様の傾向がみられます。
- 一方、「自分が健康であること」の割合については、65 歳～74 歳の前期高齢者（71.3%）までは、年齢が高くなるほど割合が多くなる傾向が顕著にみられます。
- 「共に活動する仲間や友人がいること」の割合は、特に 20 歳代以下（43.9%）で多くなっています。
- こうした若い年齢層の人の地域福祉活動等への参加を促すためには、「時間にゆとりがあること」はもとより、仲間や友人と共に活動できるような条件づくりをしていくことが大切であることを示唆する結果になっています。
- 「家の近くでできること」の割合は、地域デビューを迎える年齢層にあたる 60 歳～64 歳（44.9%）で多くなっています（図 4-4-2）。

図 4-4-2 年齢別「地域福祉活動等への参加意向」



（５）今後、充実すべき地域福祉活動（問 28）

問 28 今後のあなたの暮らしや今後予想される地域社会の状況を踏まえると、今後、どのような地域の福祉活動（町内会等の地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動）を充実していくべきと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

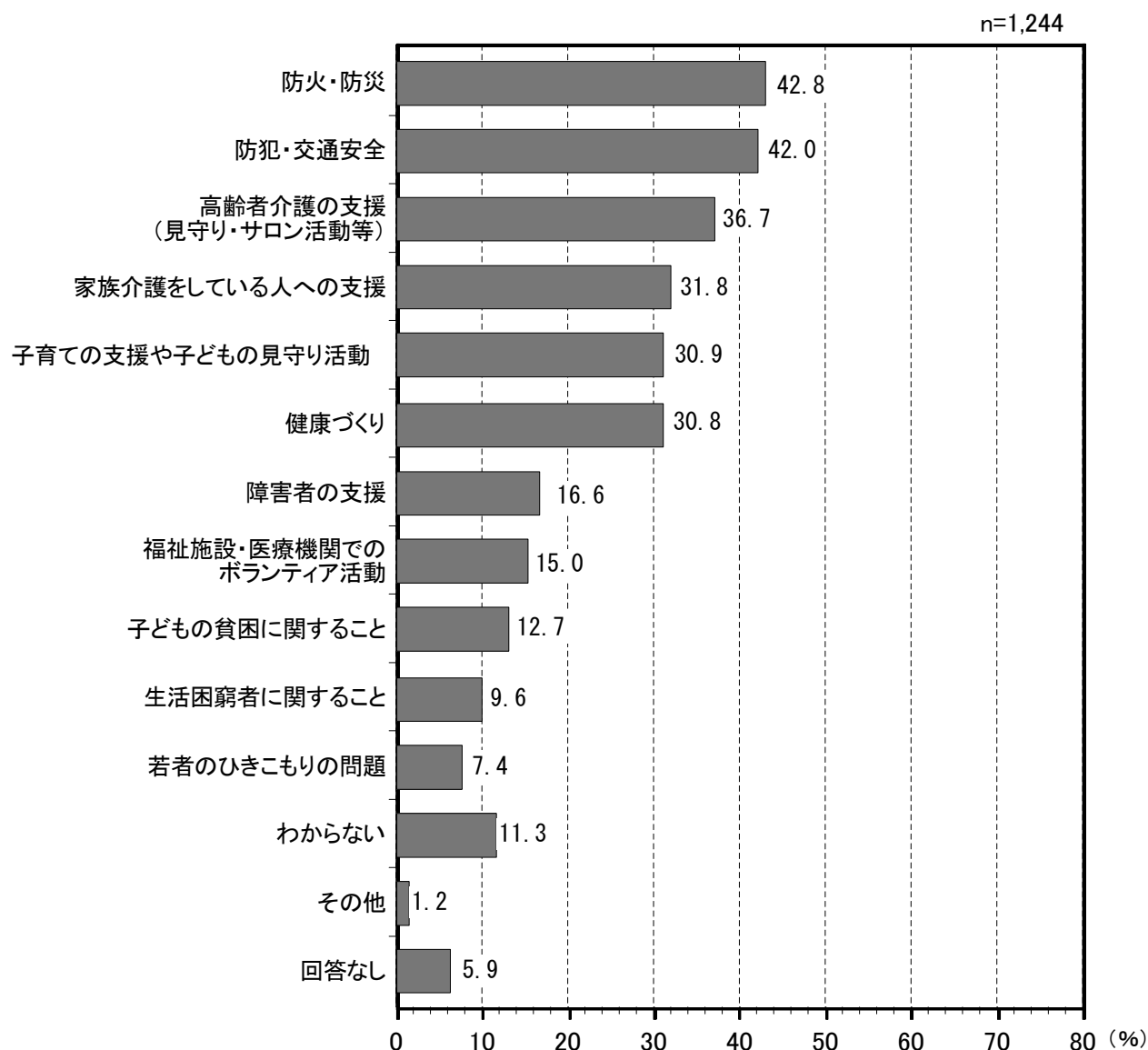
要点

「防火・防災」(42.8%)の割合が最も多くなっていますが、「防犯・交通安全」(42.0%)もほぼ同じ割合になっています。これらに次いで「高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等）」(36.7%)や「家族介護をしている人の支援」(31.8%)等が多くなっています。

全体

○「防火・防災」の割合が42.8%と最も多くなっていますが、「防犯・交通安全」(42.0%)もほぼ同じ割合になっています。
○これらに次いで「高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等）」(36.7%)、「家族介護をしている人の支援」(31.8%)、「子育ての支援や子どもの見守り」(30.9%)、「健康づくり」(30.8%)の割合が多くなっています（図 4-5-1）。

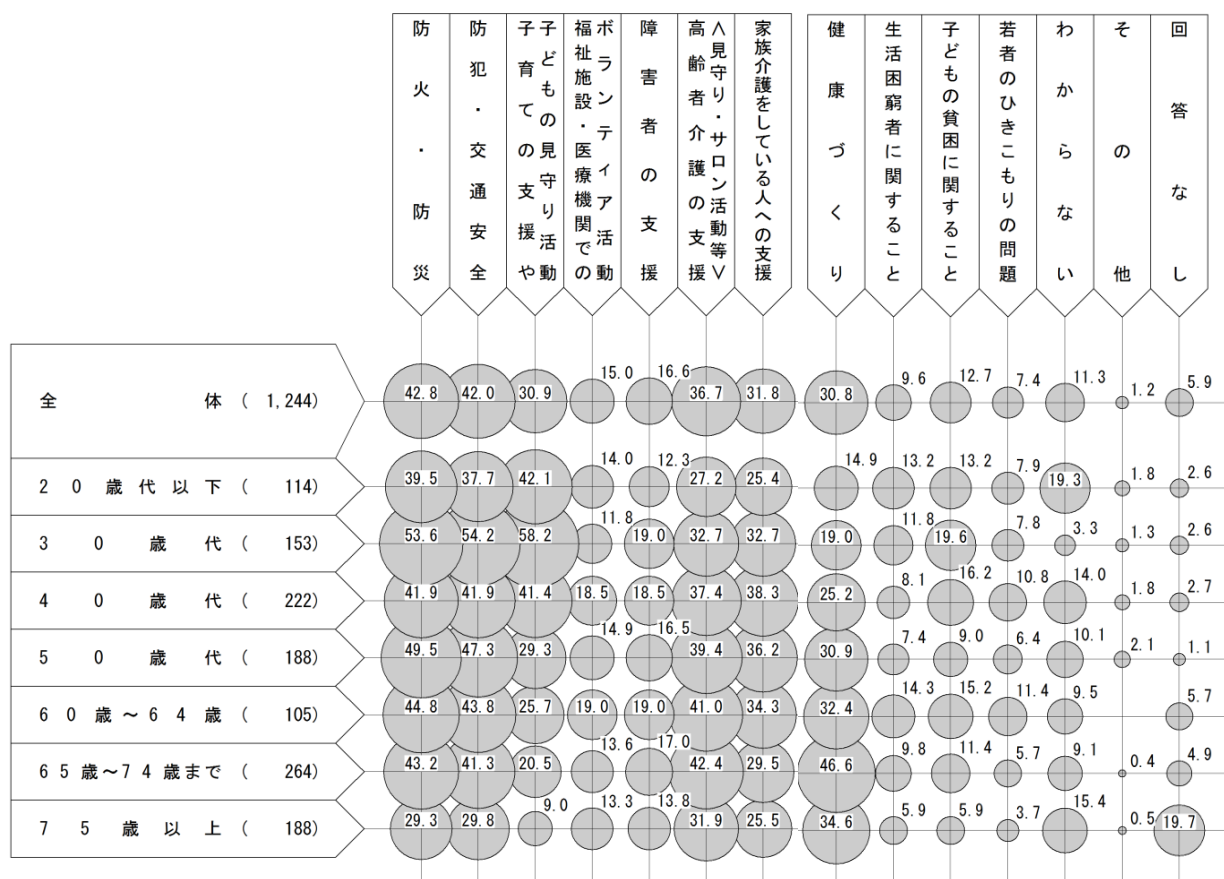
図 4-5-1 「今後、充実すべき地域福祉活動」



年齢別

- 「防火・防災」の割合は、30歳代（53.6%）で多くなっています。また、50歳代でも若干多くなっています。
- 「子育ての支援や子どもの見守り」の割合についても30歳代（58.2%）が目立って多く、また、20歳代以下（42.1%）と40歳代（41.4%）でも多くなっています。
- 「健康づくり」の割合は、65歳～74歳の前期高齢者（46.6%）で多くなっています（図4-5-2）。

図4-5-2 年齢別「今後、充実すべき地域福祉活動」



(6) 福祉活動をする上でほしい対価（問 29）

問 29 あなたが地域で福祉活動をする場合、どれくらいの対価が得られれば活動したいと思いますか。
（○は1つだけ）

要点

「特に対価を求めない」の割合が 40.5%を占め最も多く、次いで「最低賃金程度の報酬が得られれば活動する」（20.6%）の割合が多くなっています。

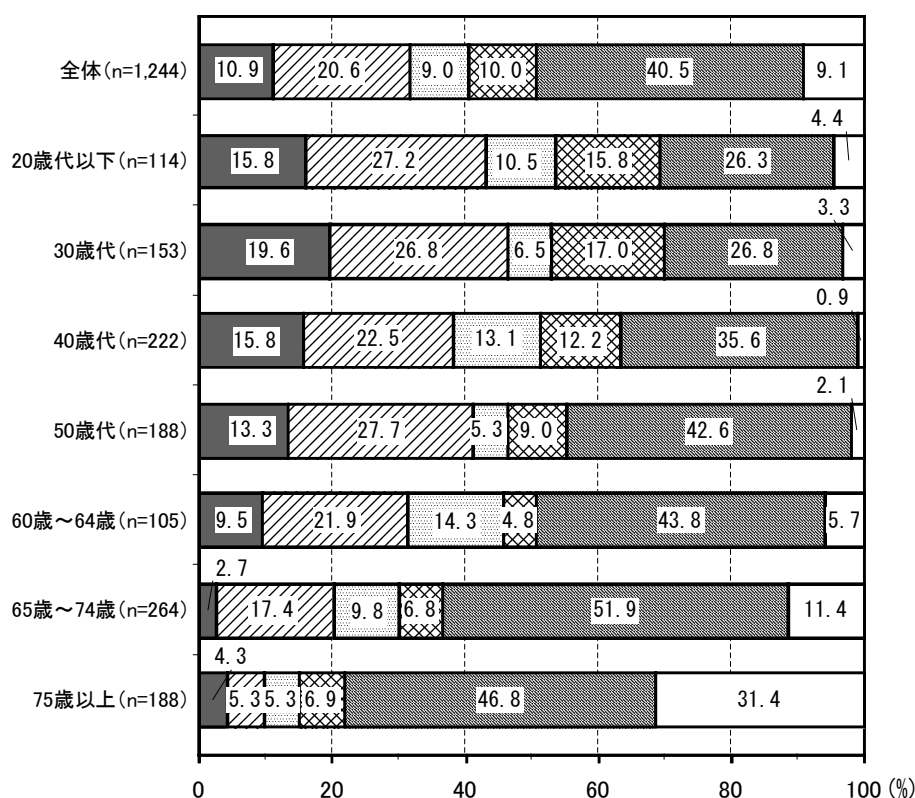
全体

○「特に対価を求めない」の割合が 40.5%を占め最も多くなっています。
○次いで「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する」（20.6%）の割合が多く、「ワンコイン（500 円）程度の報酬が得られれば活動する」（9.0%）と合わせた“低額の有償であれば活動する”という人は 29.6%を占めています（図 4-6-1）。

年齢別

○「特に対価を求めない」の割合は、75 歳以上を除くと年齢が高くなるほど多くなる傾向が顕著にみられます。
○逆に「生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する」といった仕事として捉えているような人の割合は、30 歳代（19.6%）や 20 歳代以下（15.8%）、40 歳代（15.8%）で若干多くなっています（図 4-6-1）。

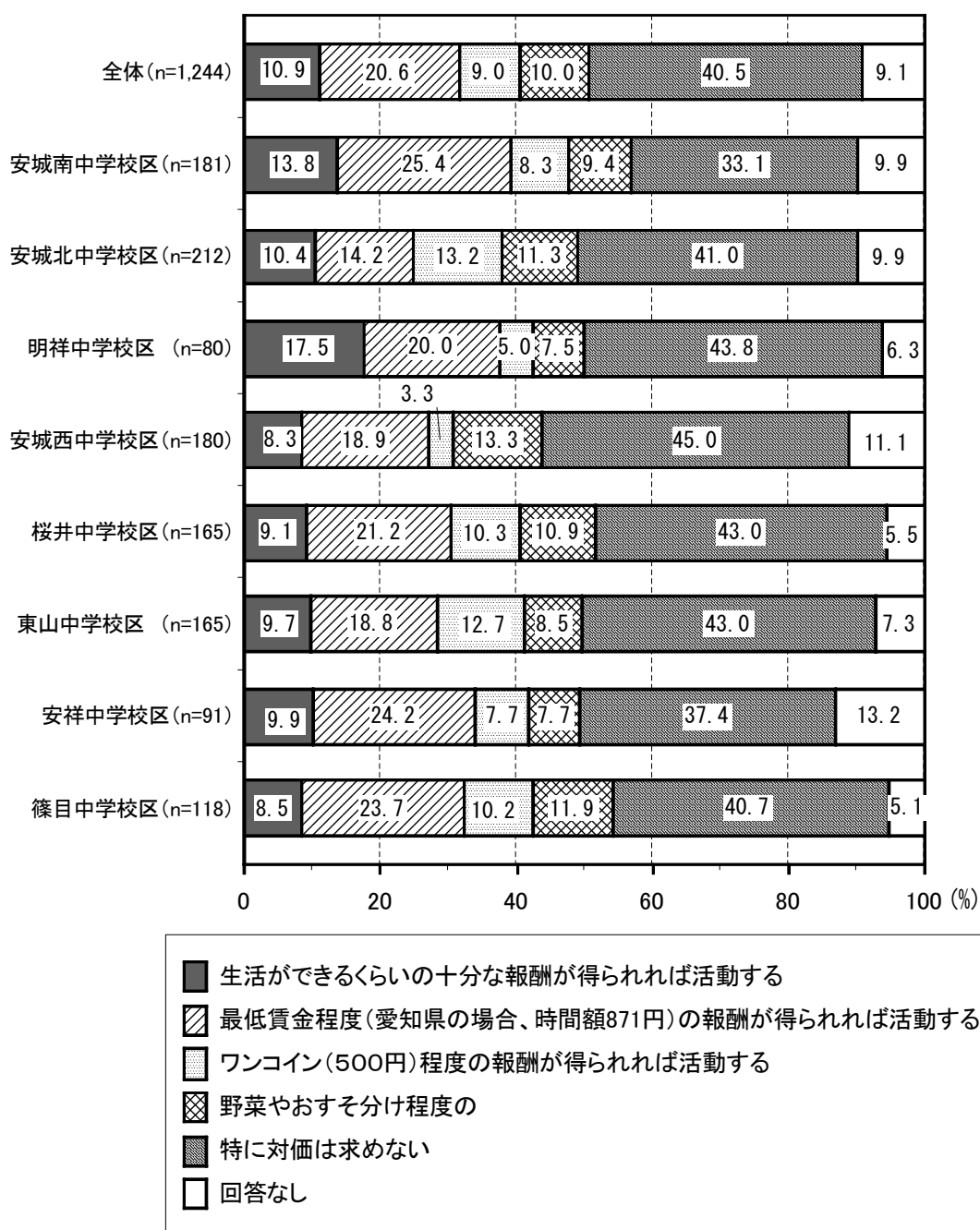
図 4-6-1 年齢別「福祉活動をする上でほしい対価」



- 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する
- ▨ 最低賃金程度(愛知県の場合、時間額871円)の報酬が得られれば活動する
- ▤ ワンコイン(500円)程度の報酬が得られれば活動する
- ▩ 野菜やおすそ分け程度の
- 特に対価は求めない
- 回答なし

- 全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城南中学校区で「特に対価を求めない」の割合（33.1%）が全体値に比べて少なくなっています。
- また、安城北中学校区で「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する」の割合（14.2%）が全体値に比べて少なくなっています。
- さらに、「生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する」といった仕事として捉えているような人の割合は、明祥中学校区（17.5%）で多くなっています（図 4-6-2）。

図 4-6-2 中学校区別「福祉活動をする上でほしい対価」



（７）福祉活動を依頼する上で支払う対価（問 30）

問 30 あなたが地域での福祉活動を依頼する場合、どれくらいの対価であれば依頼したいと思いますか。（○は1つだけ）

要点

「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」が 32.0%を占め最も多く、次いで多い「最低賃金程度であれば支払って依頼する」（26.0%）と合わせると 58.0%を占めています。

福祉活動する側は、無償ボランティアの志向が強いのにに対して、福祉活動を依頼する側の立場ではといった有償ボランティアの方が気軽であるという意識が強い状況がうかがえます。

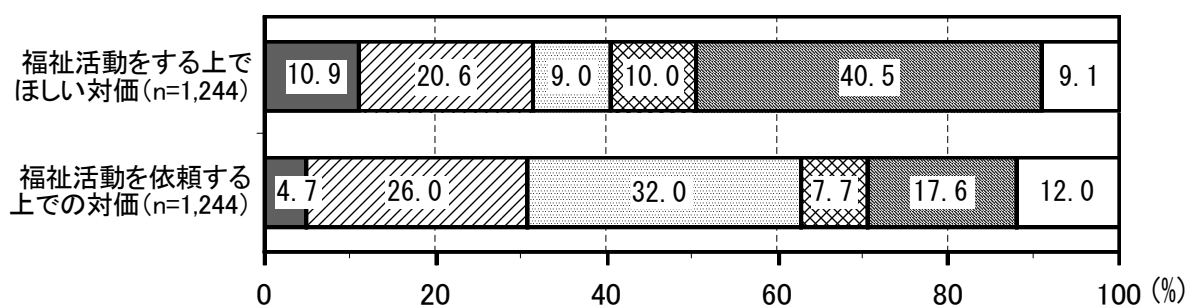
全体

○福祉活動をする上でほしい対価では、「特に対価を求めない」（40.5%）の割合が最も多くなっていたのに対して、福祉活動を依頼する上での支払う対価では、「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」の割合は 17.6%とあまり多くありません。

○福祉活動を依頼する上で支払う対価では、「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」が 32.0%を占め最も多く、次いで多い「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」（26.0%）と合わせた“低額であれば支払って依頼する”という人は 58.0%を占めています（図 4-7-1）。

○このように、福祉活動する側は、「特に対価を求めない」といった無償ボランティアの志向が強いのにに対して、福祉活動を依頼する側の立場では「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」といった有償ボランティアの方が気軽であるという意識が強い状況がうかがえます。

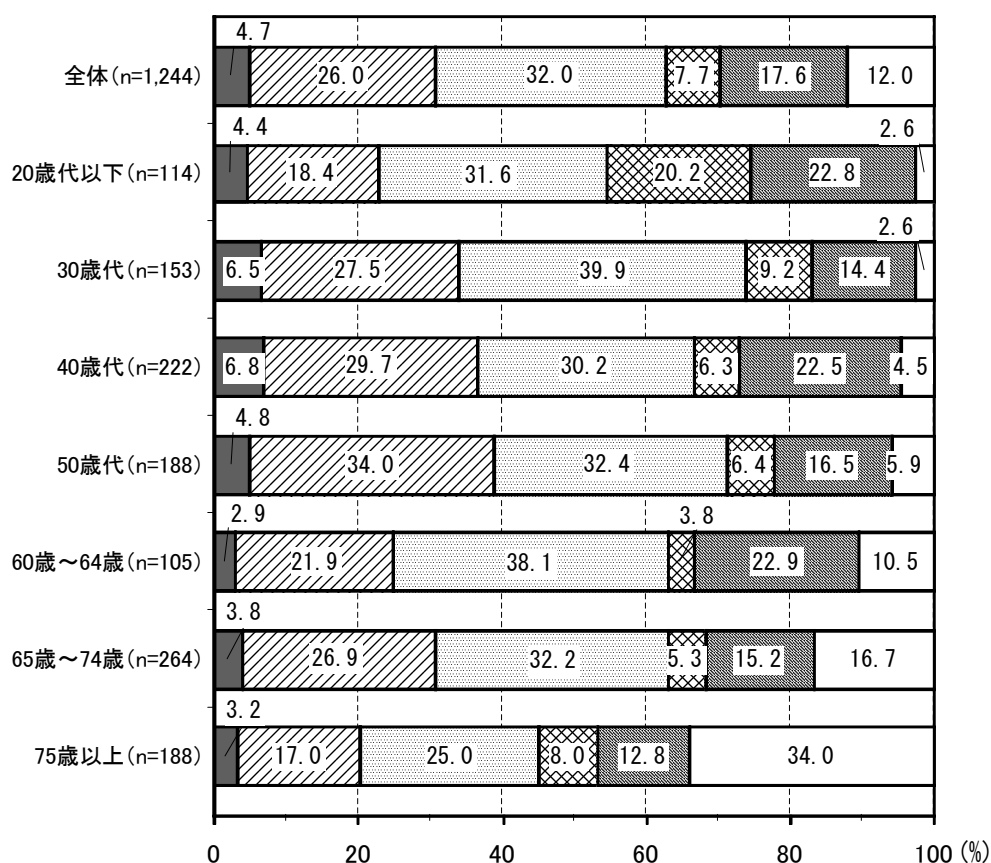
図 4-7-1 「福祉活動をする上でほしい対価と福祉活動を依頼する上で支払う対価」



- 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▨ 最低賃金程度(愛知県の場合、時間額871円)の報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▤ ワンコイン(500円)程度の報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▩ 野菜やおすそ分け程度の気持ちがあれば活動する(依頼する)
- 特に対価は求めない(対価の支払いがあるのであれば依頼しない)
- 回答なし

- 「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」の割合は 30 歳代（39.9%）や 60 歳～64 歳（38.1%）で若干多くなっています。
- そのほか、50 歳代で「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」の割合（34.0%）が他の年齢層に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。
- また、20 歳代以下では、「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」の割合が 18.4%と少ない一方で、「野菜やおすそ分け程度であれば依頼する」（20.2%）や「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」（22.8%）が多くなっていることが特徴としてみられます（図 4-7-2）。

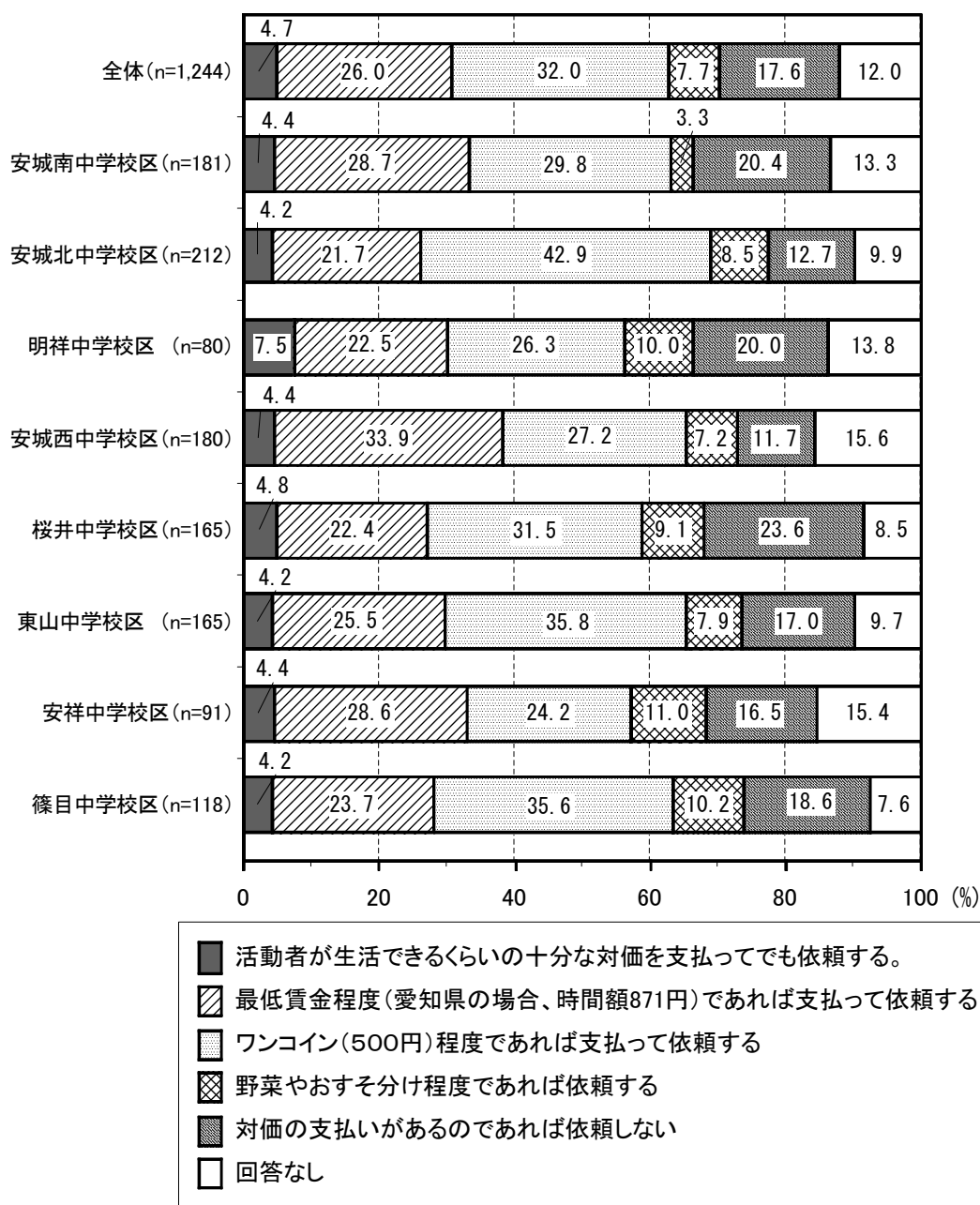
図 4-7-2 年齢別「福祉活動を依頼する上で支払う対価」



- 活動者が生活できるくらいの十分な対価を支払ってでも依頼する。
- ▨ 最低賃金程度（愛知県の場合、時間額871円）であれば支払って依頼する
- ░ ワンコイン（500円）程度であれば支払って依頼する
- ▩ 野菜やおすそ分け程度であれば依頼する
- 対価の支払いがあるのであれば依頼しない
- 回答なし

- 「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」の割合は、安城北中学校区（42.9%）で多くなっています。
- 「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」の割合は、安城西中学校区（33.9%）で若干多くなっています。
- 「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」の割合は、桜井中学校区（23.6%）で若干多くなっています（図 4-7-3）。

図 4-7-3 中学校区別「福祉活動を依頼する上での対価の額」



(8) 高齢期の過ごし方 (問 31)

問 31 あなたは、定年退職後など的高齢期を主にどのように過ごしたいとお考えですか。
(○は3つまで) ※既に高齢期を迎えておられる方もご回答ください。

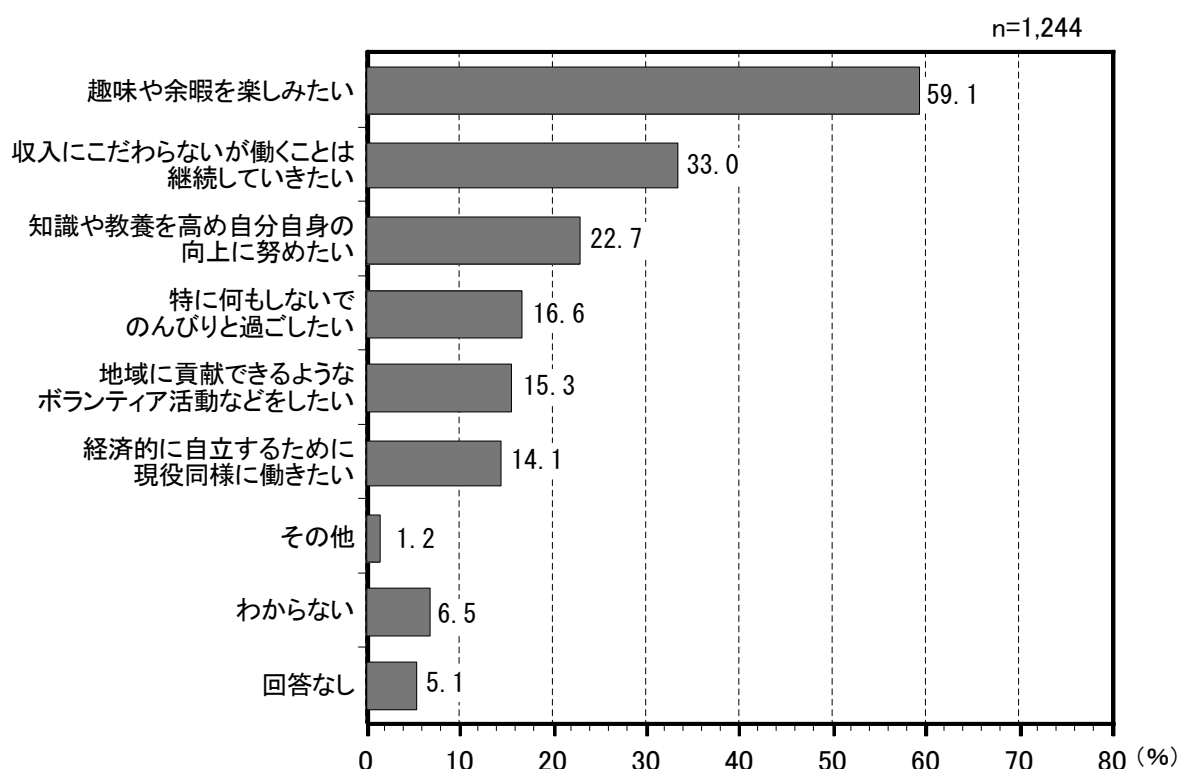
要点

「趣味や余暇を楽しみたい」(59.1%)や「収入にこだわらないが働くことは継続していききたい」(33.0%)など、自身のためや個人的な生活のために高齢期を過ごしていききたいという意向が強く、「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」といった他者への貢献に対する意向を示す人はあまり多くありません。

全体

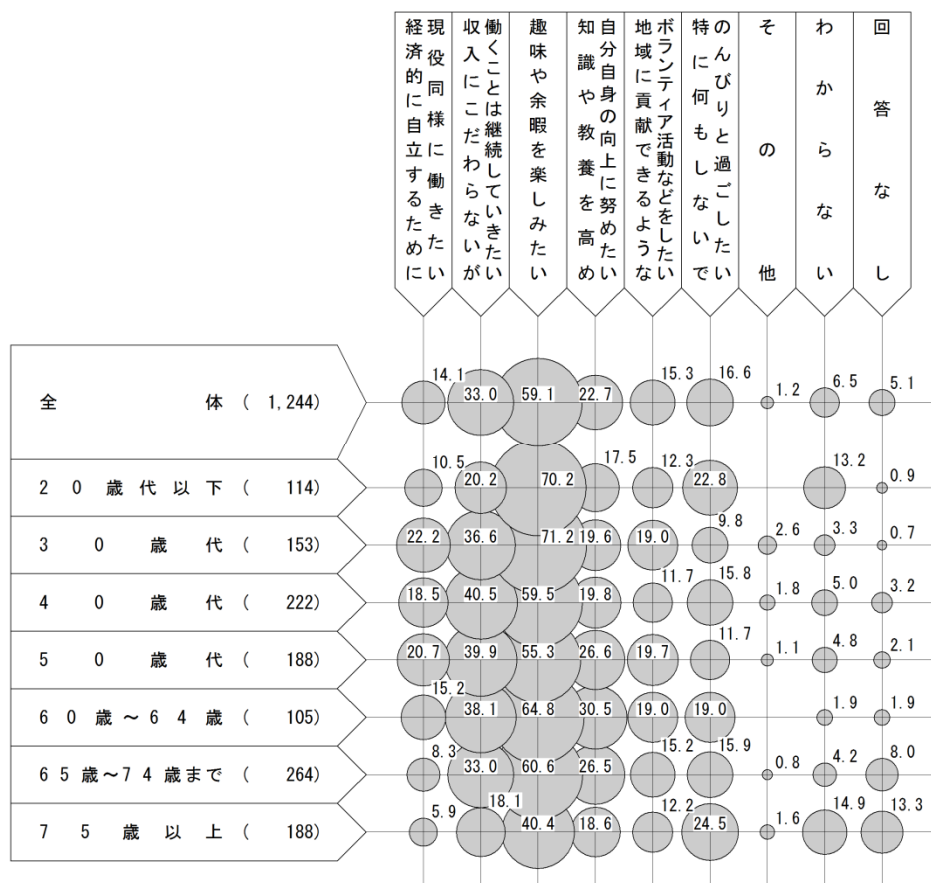
○「趣味や余暇を楽しみたい」の割合が59.1%と最も多くなっています。次いで「収入にこだわらないが働くことは継続していききたい」(33.0%)、「知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい」(22.7%)が多くなっています。
○全般的に自身のためや個人的な生活のために高齢期を過ごしていききたいという意向が強い傾向がみられ、「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」(15.3%)といった他者への貢献に対する意向を示す人はあまり多くありません(図4-8-1)。

図 4-8-1 「高齢期の過ごし方」



- 「趣味や余暇を楽しみたい」の割合は、いずれの年齢層においても一番目に多くなっていますが、特に20歳代以下（70.2%）や30歳代（71.2%）といった若い年齢層で多くなっています。一方、75歳以上の後期高齢者（40.4%）で目立って少なくなっています（図4-8-2）。
- 「収入にこだわらないが働くことは継続していきたい」の割合は、40歳代（40.5%）や50歳代（39.9%）、「60歳～64歳」（38.1%）で若干多くなっています。
- 「知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい」の割合は、特に60～64歳（30.5%）で若干多くなっています。
- 「特に何もしないでのんびりと過ごしたい」の割合は、20歳代以下（22.8%）と75歳以上（24.5%）で若干多くなっています。
- 「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」の割合は、50歳代（19.7%）で、また、「経済的に自立するために現役同様に働きたい」の割合は、30歳代（22.2%）と50歳代（20.7%）で若干多くなっています。（図4-8-2）。

図4-8-2 年齢別「高齢期の過ごし方」



5 町内福祉委員会について

(1) 町内福祉委員会の認知度 (問 32)

問 32 町内福祉委員会についてどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

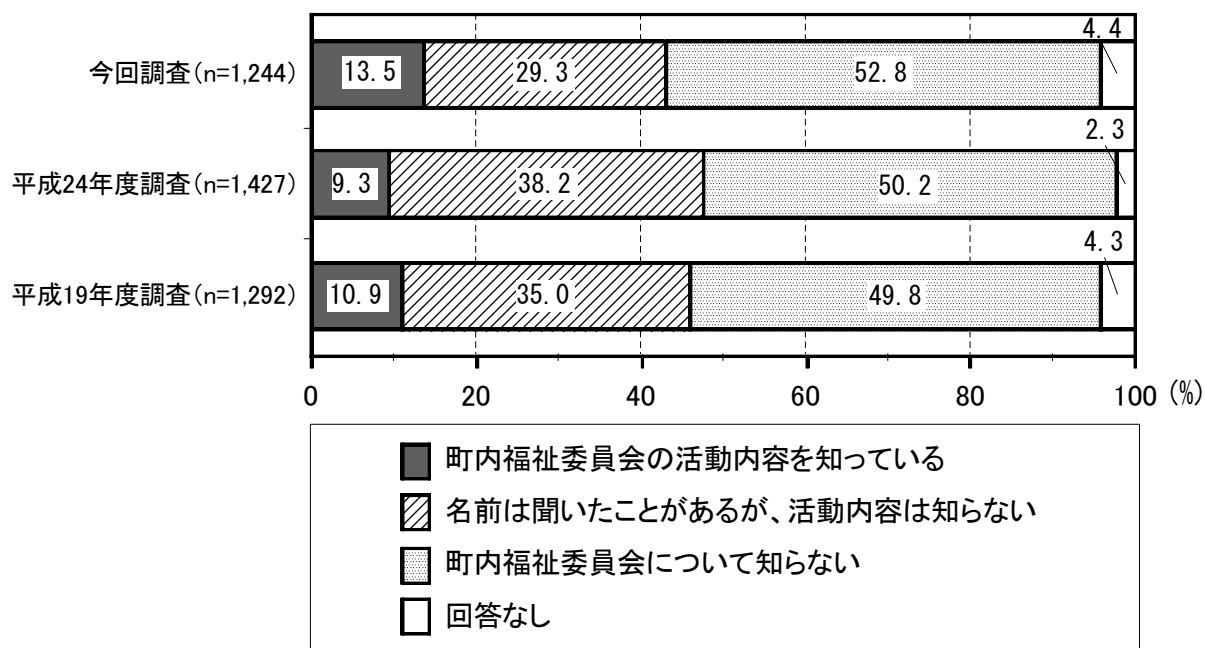
要点

町内福祉委員会を“知っている”という人は 42.8%を占めています。年齢が高くなるほど“知っている”の割合が概ね順次多くなっていく傾向がみられます。

全体

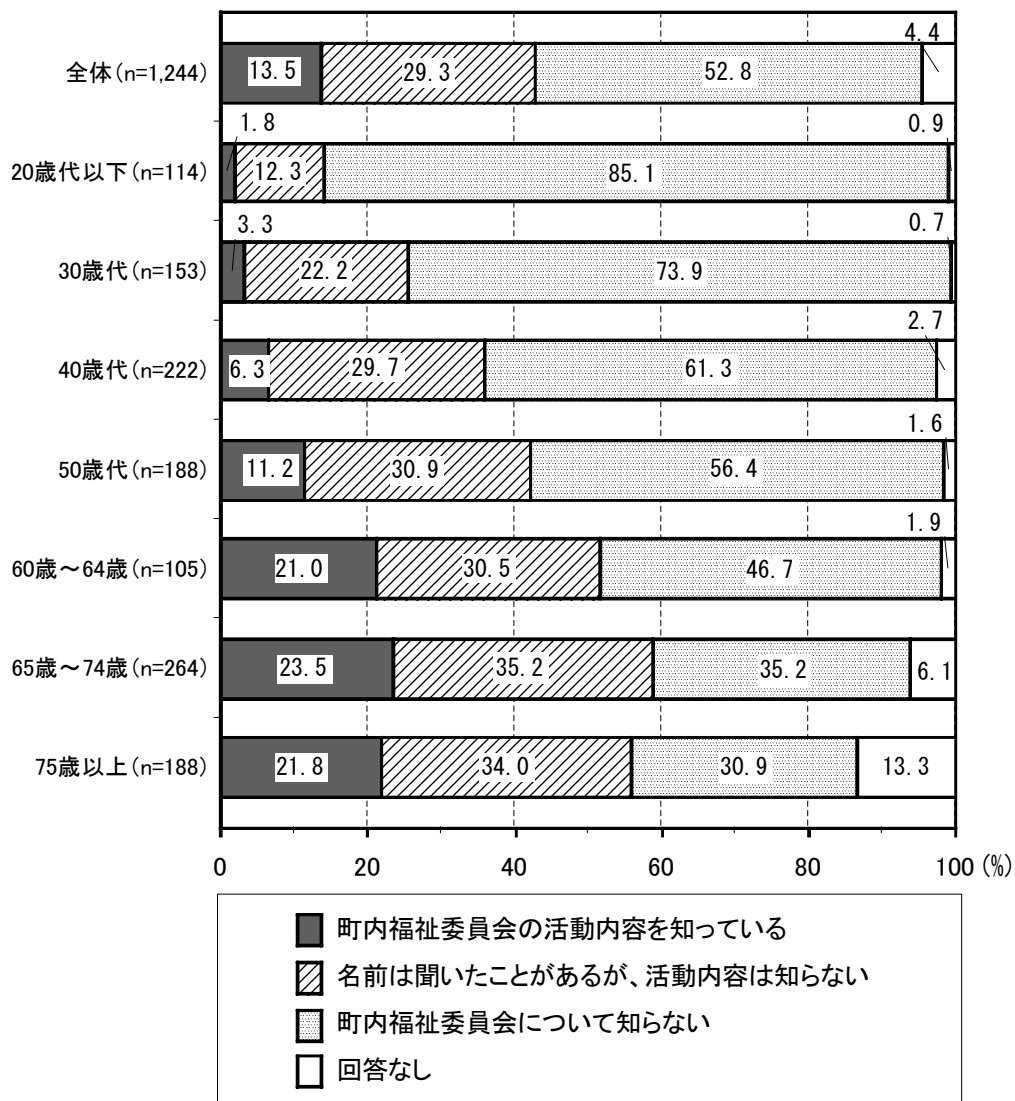
- 「町内福祉委員会の活動内容を知っている」の割合が 13.5%となっています。「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」(29.3%) と合わせた“知っている”という人は 42.8%で、「町内福祉委員会について知らない」(52.8%) を 10 ポイント下回っています。
- 前回・前々回調査(平成 24 年度・平成 19 年度調査)と比較してもあまり大きな差異はみられません(図 5-1-1)。

図 5-1-1 「町内福祉委員会の認知度」(前回・前々回比較)



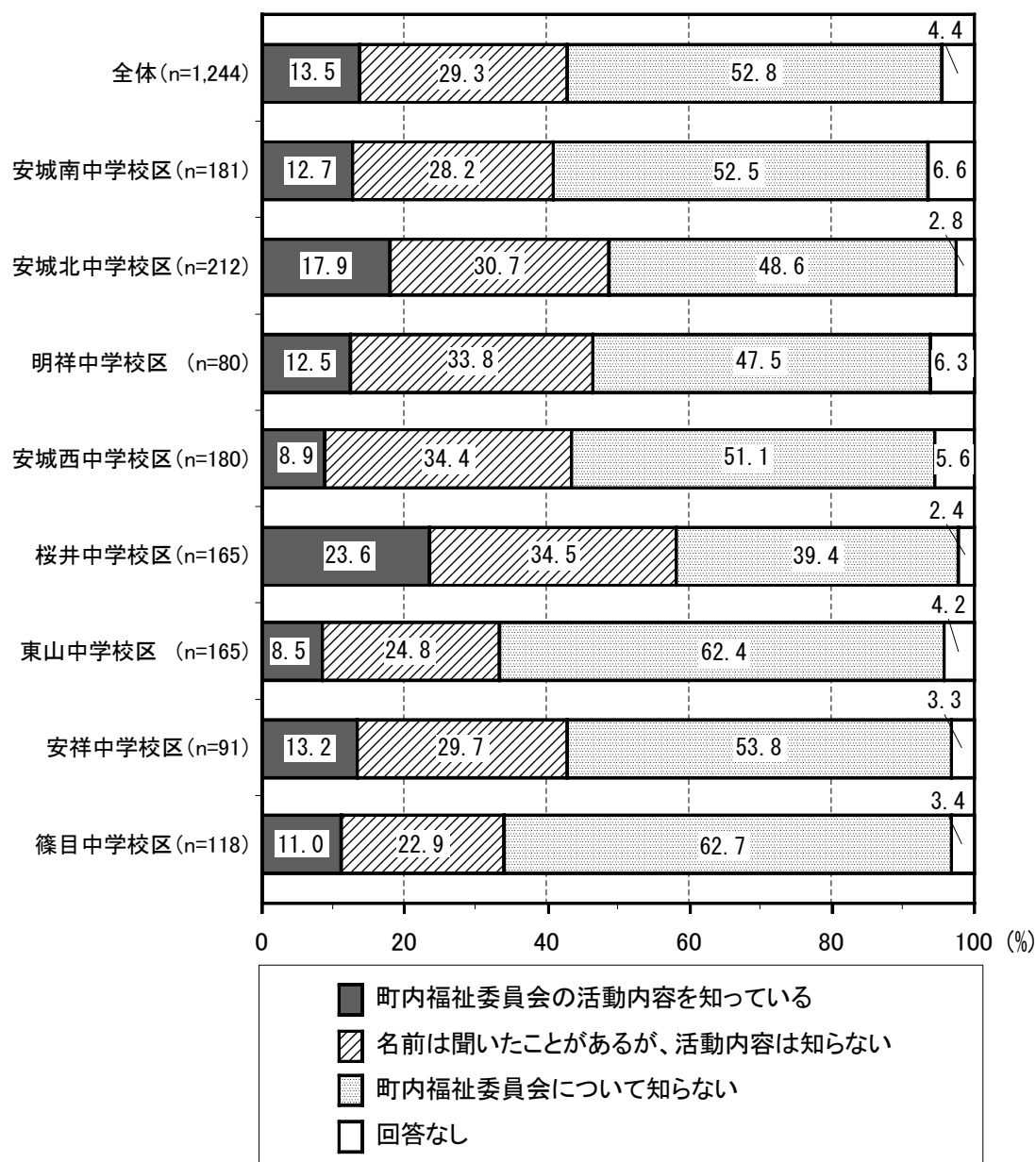
- 年齢が高くなるほど“知っている”の割合が概ね順次多くなっていく傾向がみられ、65歳～74歳の前期高齢者で58.7%を占め最も多くなっています。
- また、60歳～64歳以降の年齢層では、“知っている”の割合が「町内福祉委員会について知らない」の割合を上回っています（図5-1-2）。

図5-1-2 年齢別「町内福祉委員会の認知度」



- 「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」を合わせた“知っている”という人の割合は、桜井中学校区（58.1%）で全体値を15.3ポイント上回る形で多くなっています。また、安城北中学校区（48.6%）でも若干多くなっています。
- 一方、知っている”という人の割合は、東山中学校区（33.3%）と篠目中学校区（33.9%）で若干少なくなっています（図5-1-3）。

図5-1-3 中学校区別「町内福祉委員会の認知度」



(2) 町内福祉委員会への関わり (問 32-1)

問 32-1 町内福祉委員会の活動についてどのぐらいかかわっていますか。(○は1つだけ)

要点

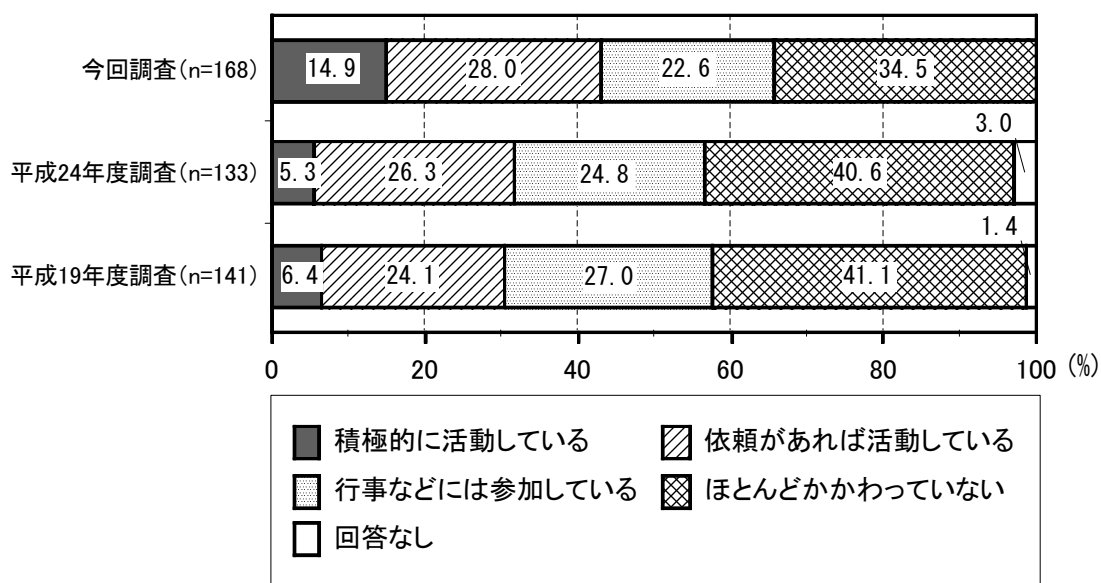
問 32 で「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した 168 人 (13.5%) に町内福祉委員会への関わりについて尋ねたところ、「主催側の立場で関わっている人」(「積極的に活動している」+「依頼があれば活動している」)は 42.9%を占めています。

全体

○問 32 で「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した 168 人 (回答者全体の 13.5%) に対して町内福祉委員会への関わりについて尋ねたところ、「ほとんど関わっていない」の割合が 34.5%を占め最も多いものの、「積極的に活動している」の (14.9%) と「依頼があれば活動している」(28.0%) で「主催側の立場で関わっている人」は合わせて 42.9%を占め、「ほとんど関わっていない」を 8.4%ポイント上回っています。(図 5-2-1)。

○前回調査 (平成 24 年度) と比較すると、「積極的に活動している」(14.9%) が前回調査よりも 9.6 ポイント高くなっています (図 5-2-1)。

図 5-2-1 「町内福祉委員会への関わり」(前回・前々回比較)



（３）町内福祉委員会活動への参加意向（問 33）

問 33 今後、町内福祉委員会による活動に参加する機会があれば、参加したいと思いますか。
（○は１つだけ）

要点

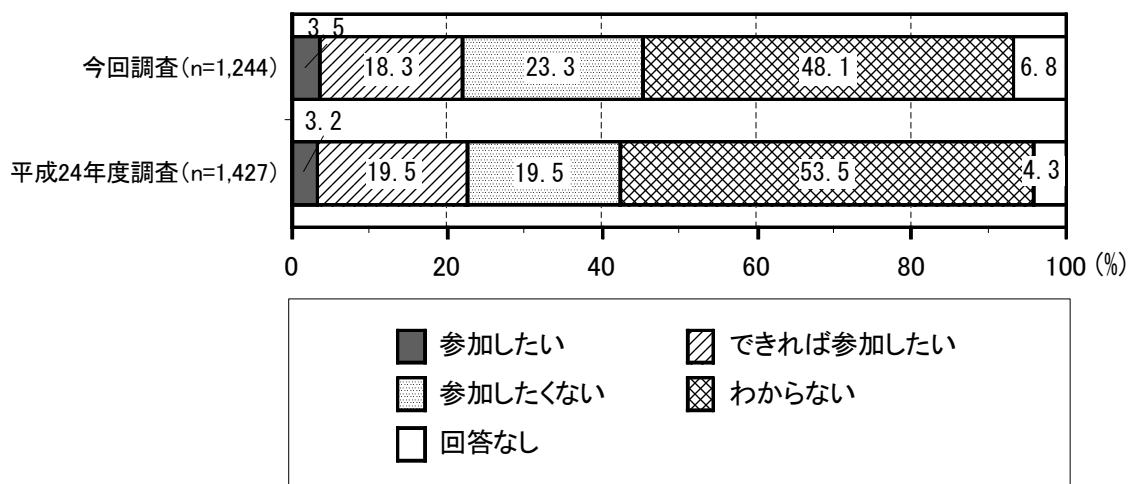
「参加したい」という割合は 3.5%と少ないですが、「できれば参加したい」と合わせると 21.8%を占め、必ずしも少なくありません。「参加したい」と「できれば参加したい」とを合わせた割合は、65 歳～74 歳の前期高齢者（33.0%）で最も多くなっています

全体

○町内福祉委員会活動に「参加したい」という割合は 3.5%と少ないですが、「できれば参加したい」と合わせると 21.8%を占め、「参加したくない」（23.3%）を僅かながら下回っているものの必ずしも少なくありません。

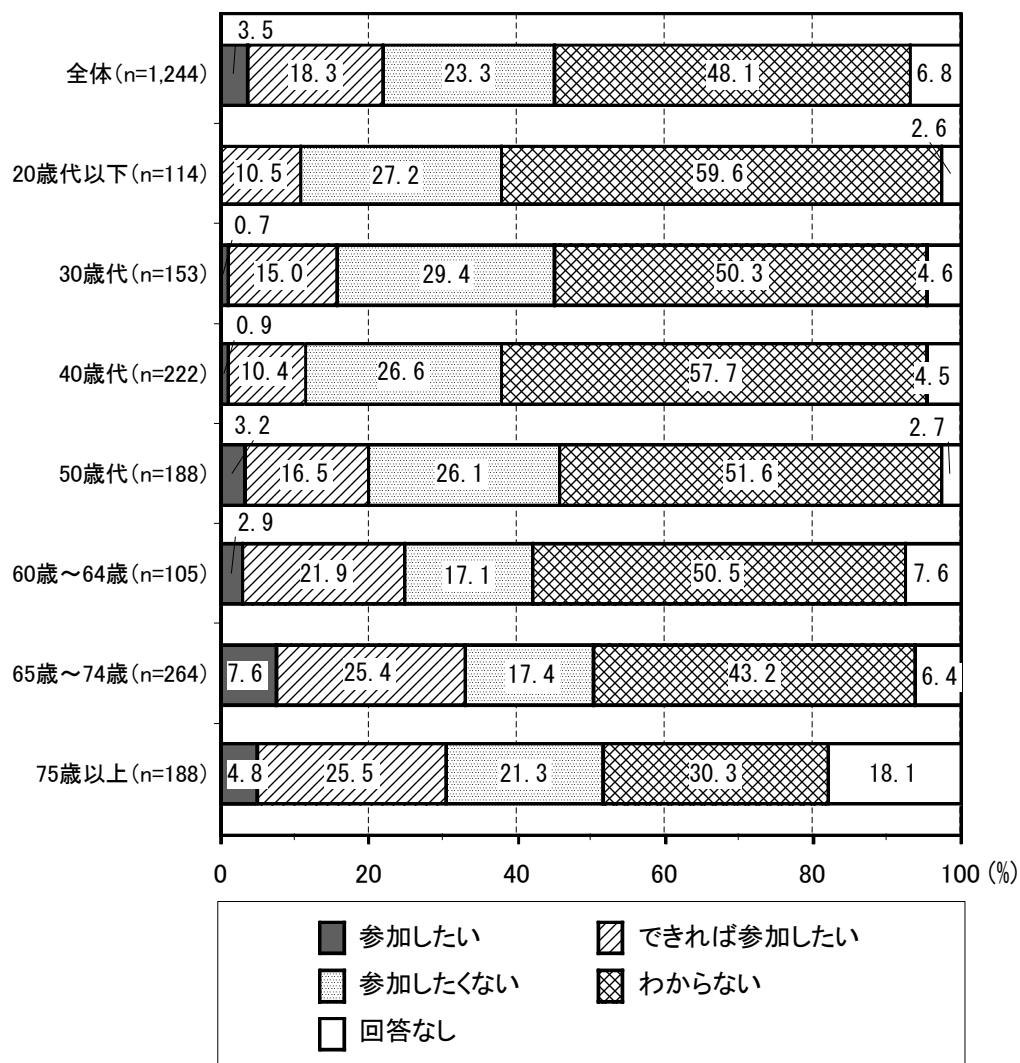
○前回調査（平成 24 年度調査）と比較すると、「わからない」の割合が 5.4 ポイント減少しています（図 5-3-1）。

図 5-3-1 「町内福祉委員会活動への参加意向」（前回調査）



- 「参加したい」と「できれば参加したい」とを合わせた割合は、年齢が高くなるほど概ね順次多くなる傾向がみられ、65歳～74歳の前期高齢者（33.0%）で最も多くなっています。
- 「参加したくない」の割合は、30歳代（29.4%）で全体値と比べて若干多くなっています（図5-3-2）。

図 5-3-2 年齢別「町内福祉委員会活動への参加意向」



(4) 参加したくない理由 (問 33-1)

問 33-1 参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

要点

「自分の生活で精一杯だから」(37.9%) が最も多く、次いで「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%) が多くなっています。

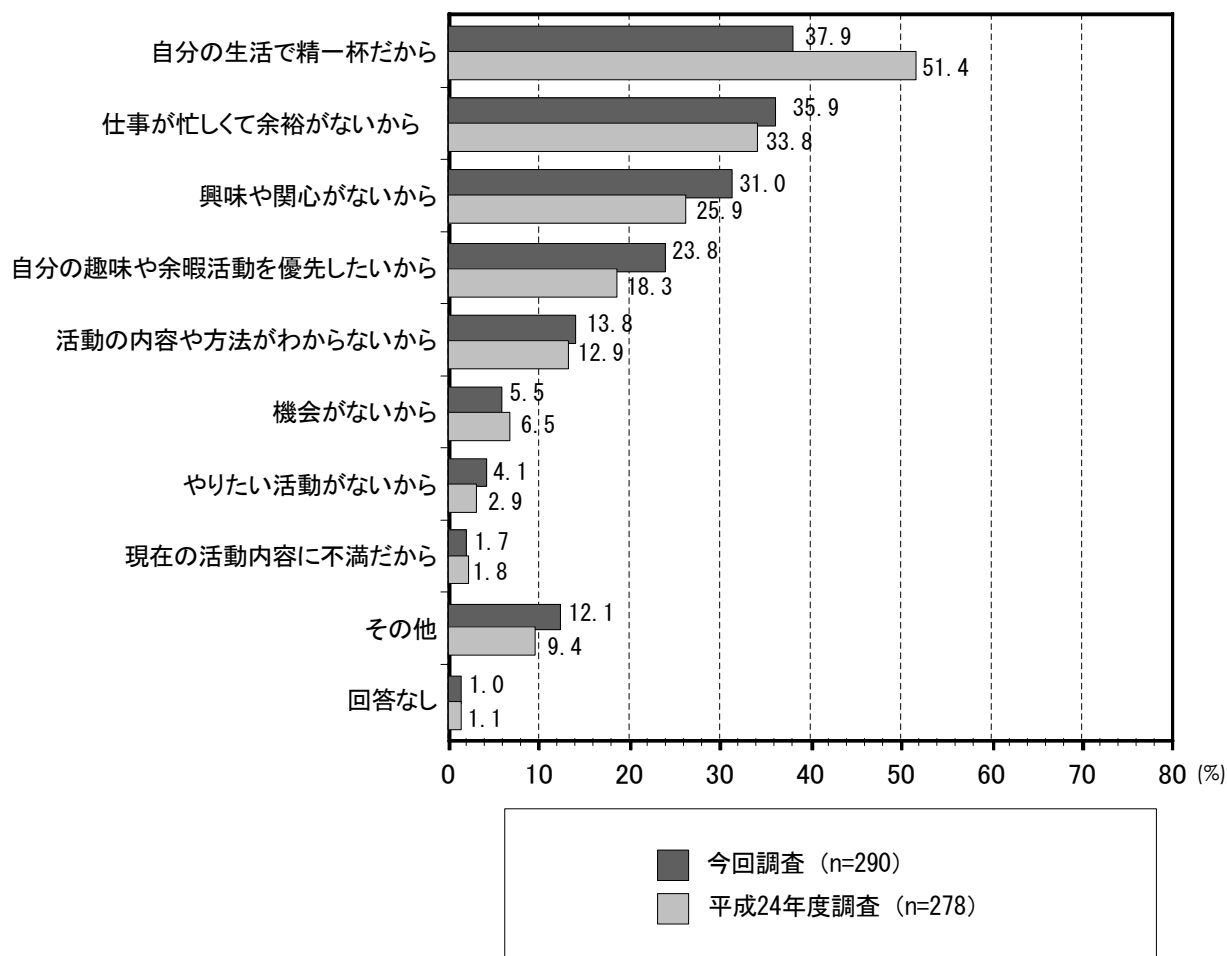
全体

○問 33 で「参加したくない」と回答した 290 人(回答者全体の 23.3%) に対して参加したくない理由を尋ねたところ、「自分の生活で精一杯だから」(37.9%) が最も多く、次いで「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%)、「興味や関心がないから」(31.0%)、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」(23.8%) が多くなっています(図 5-4-1)。

○これら 4 項目のうち、「自分の生活で精一杯だから」や「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%)、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」といった理由については、対応がなかなか困難ですが、「活動の内容や方法がわからないから」という回答は 13.8% みられることから、活動内容や方法、さらにはそれらの必要性を周知することによって町内福祉委員会活動を知ってもらい、興味や関心の向上に結びつけていくことが考えられます。

○前回調査(平成 24 年度調査)と比較すると、「自分の生活で精一杯だから」の割合は前回調査よりも 13.5 ポイントも減っています。一方で、「興味や関心がないから」と「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」の割合は、前回調査よりもそれぞれ 5.1 ポイント、5.5 ポイント増えています(図 5-4-1)。

図 5-4-1 「参加したくない理由」(前回比較)



6 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について

（１）社会福祉協議会の認知度（問 34）

問 34 安城市社会福祉協議会をご存知ですか。（○は１つだけ）

要点

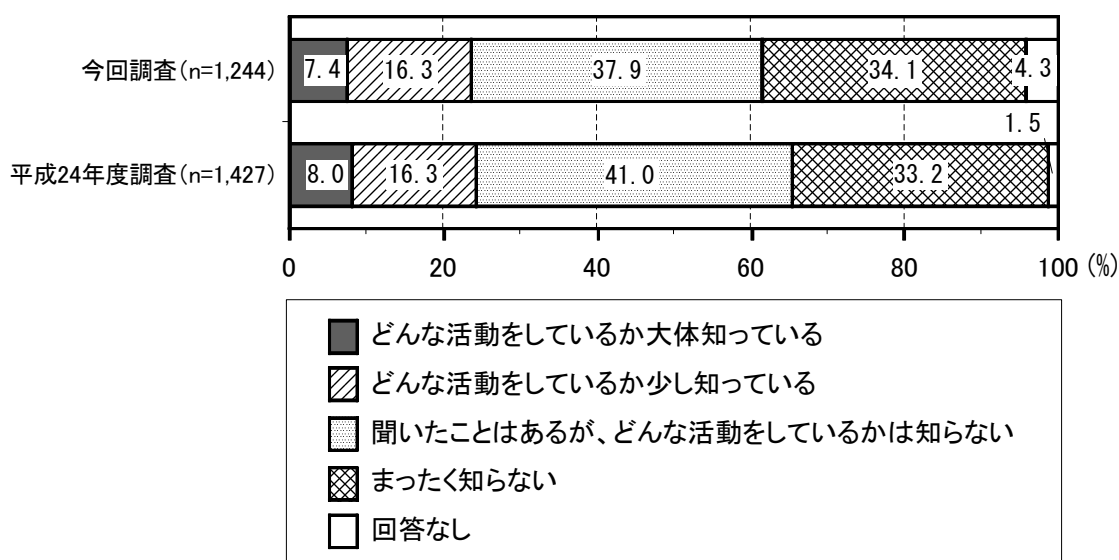
社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」（7.4%）と「どんな活動をしているか少し知っている」（16.3%）を合わせると 23.7%を占めています。

全体

○社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は7.4%と少ないですが、「どんな活動をしているか少し知っている」（16.3%）を合わせると 23.7%を占めています。さらに、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」（37.9%）を加えると 61.6%になり、「まったく知らない」（34.1%）を大きく上回る結果になっています。

○前回調査（平成 24 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 6-1-1）。

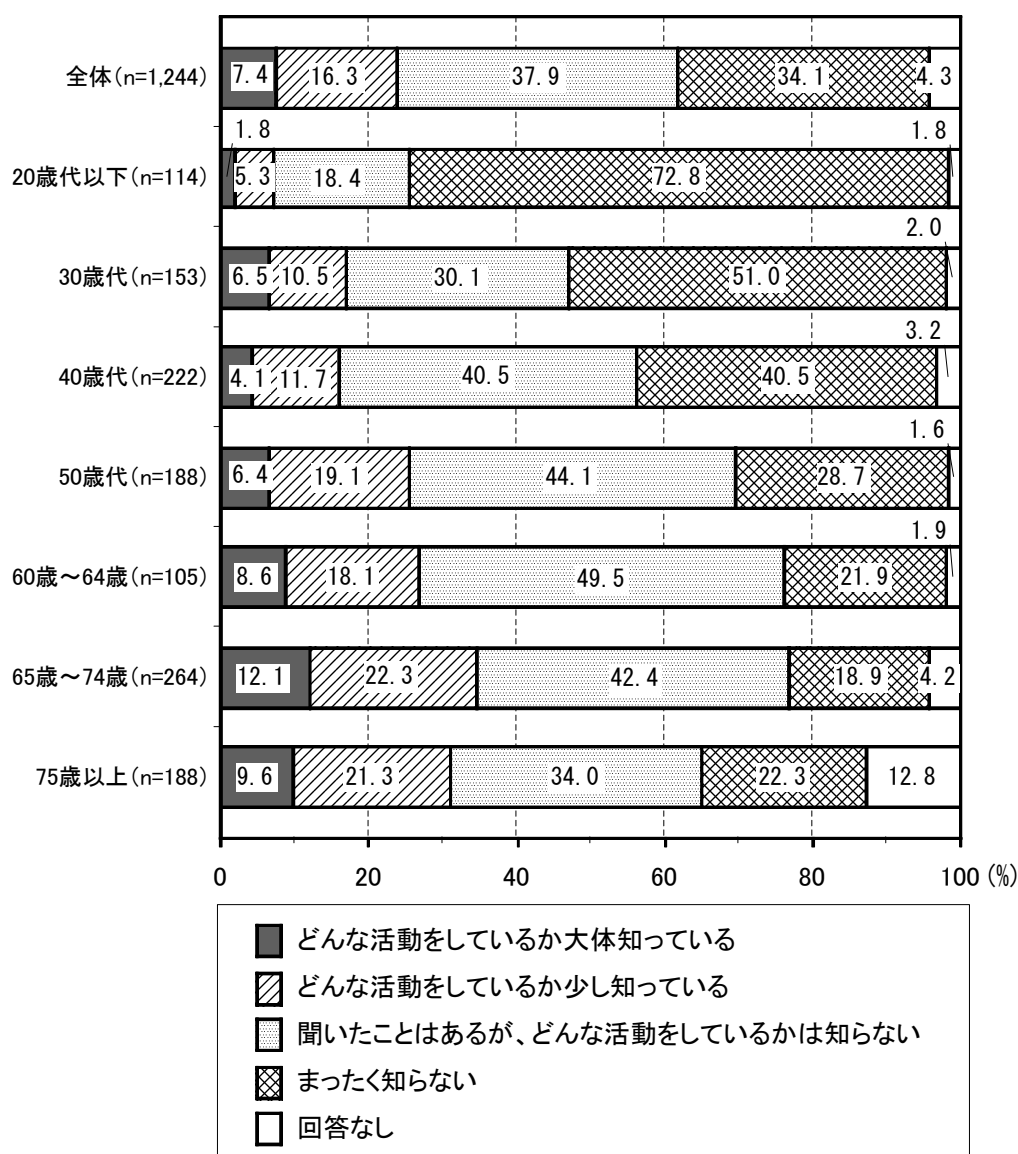
図 6-1-1 「社会福祉協議会の認知度」（前回比較）



○「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では72.8%、30歳代で51.0%と過半数を占めています。

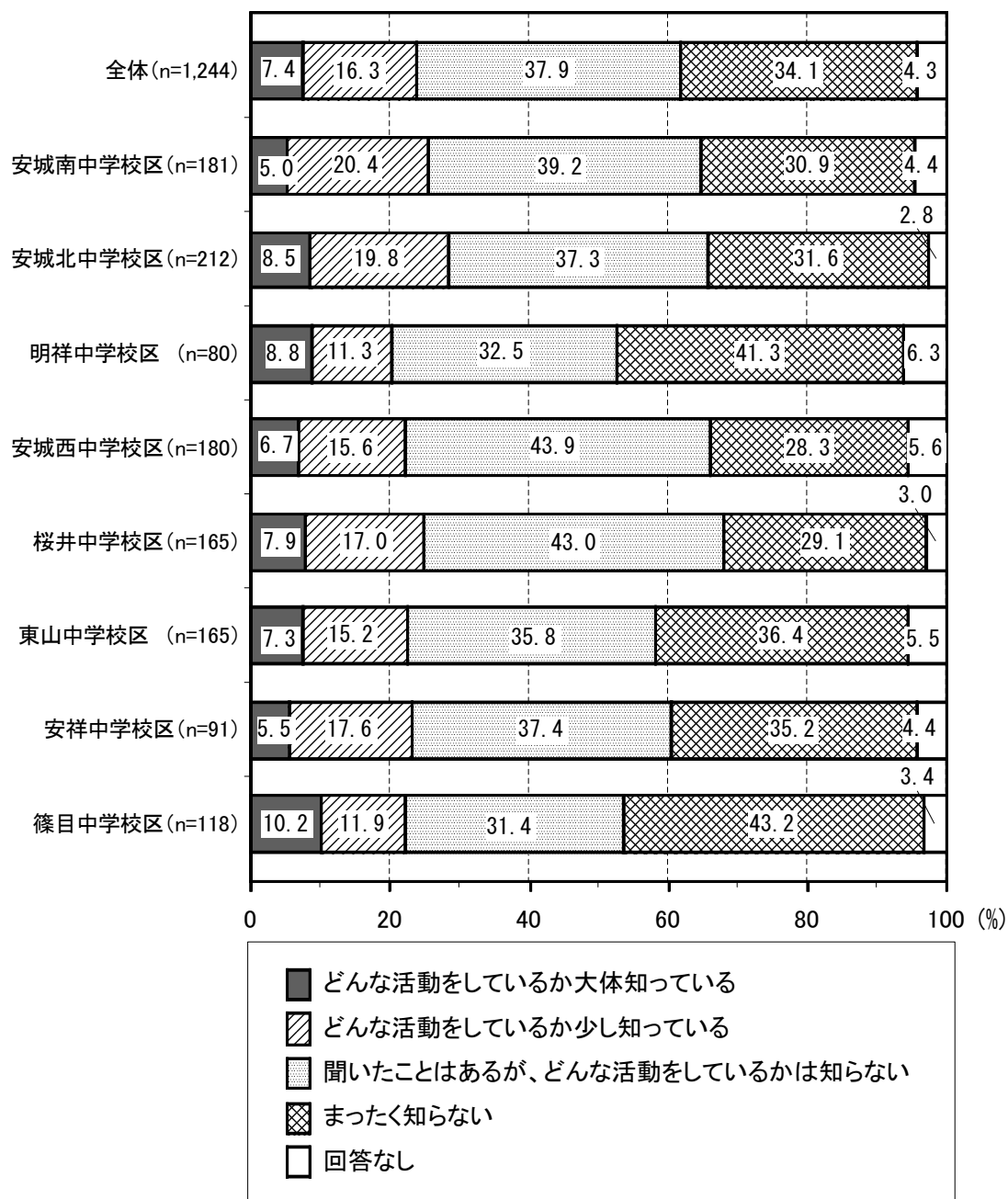
○逆に、社会福祉協議会の認知度は年齢が高くなるにしたがって概ね順次多くなる傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、65歳～74歳の前期高齢者で34.4%を占め最も多くなっています（図6-1-2）。

図6-1-2 年齢別「社会福祉協議会の認知度」



○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（43.2%）と明祥中学校区（41.3%）で多くなっています（図 6-1-3）。

図 6-1-3 中学校区別「社会福祉協議会の認知度」



（２）地区社会福祉協議会の認知度（問 35）

問 35 市内8中学校区ごとに、地区社会福祉協議会（地区社協）が地域福祉の推進組織としてありますが、どの程度ご存知ですか。（○は1つだけ）

要点

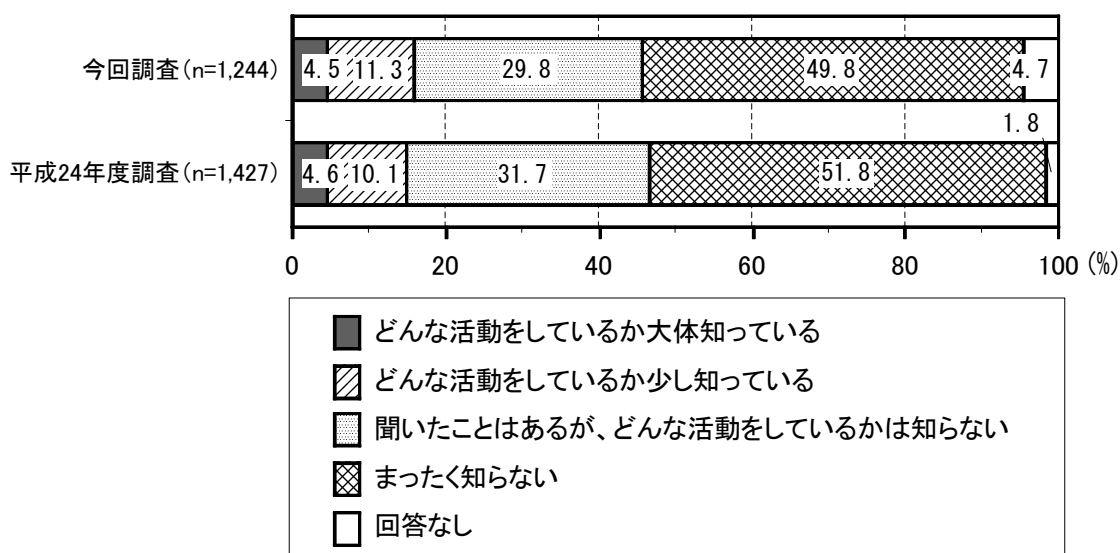
地区社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」（4.5%）と「どんな活動をしているか少し知っている」（11.3%）を合わせると 15.8%を占めています。

全体

○地区社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は4.5%で、「どんな活動をしているか少し知っている」（11.3%）と合わせても 15.8%で、社会福祉協議会よりも認知度が低くなっています。「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」（29.8%）を加えても 45.6%と半数に達しておらず、「まったく知らない」（49.8%）を下回る結果になっています。

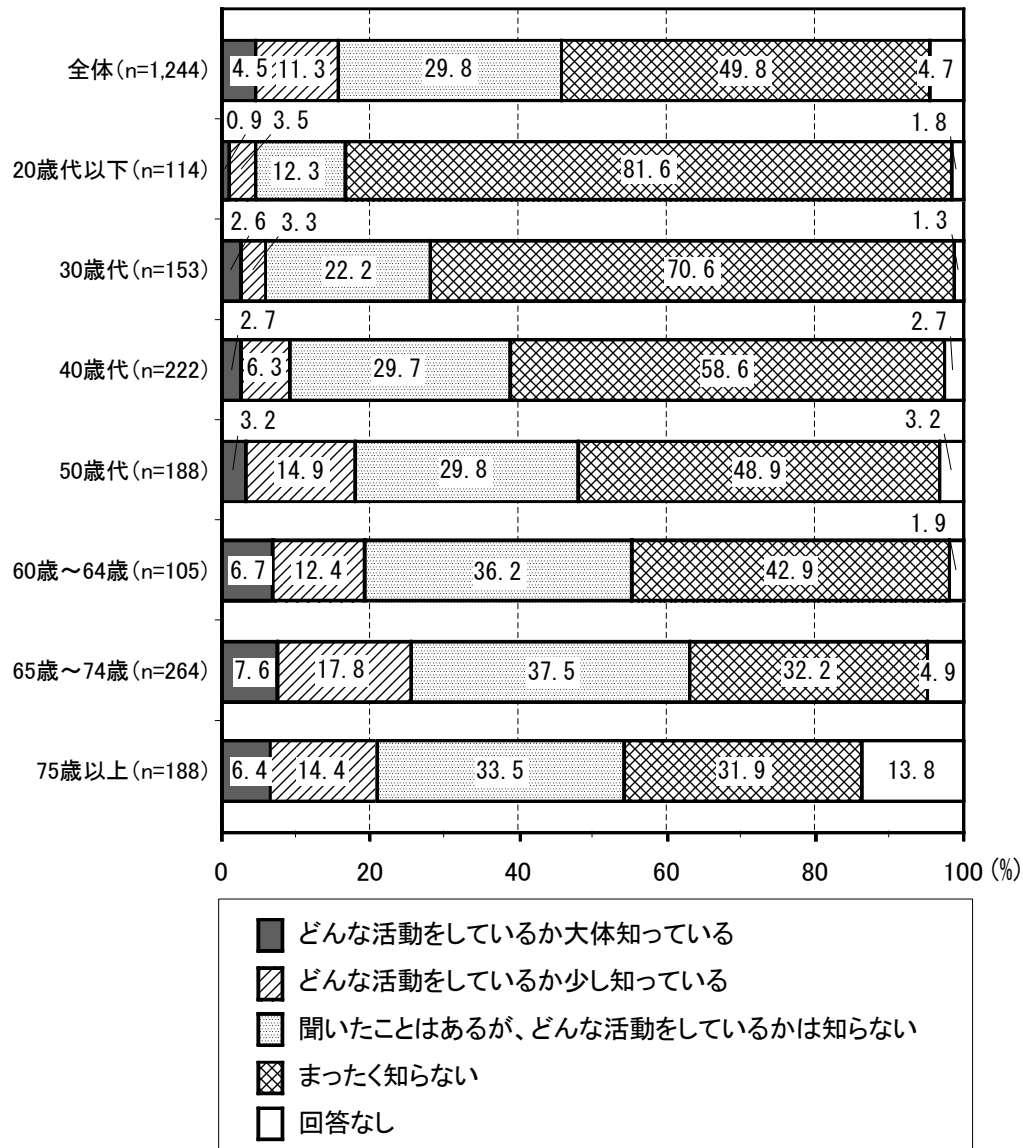
○前回調査（平成 24 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 6-2-1）。

図 6-2-1 「地区社会福祉協議会の認知度」（前回比較）



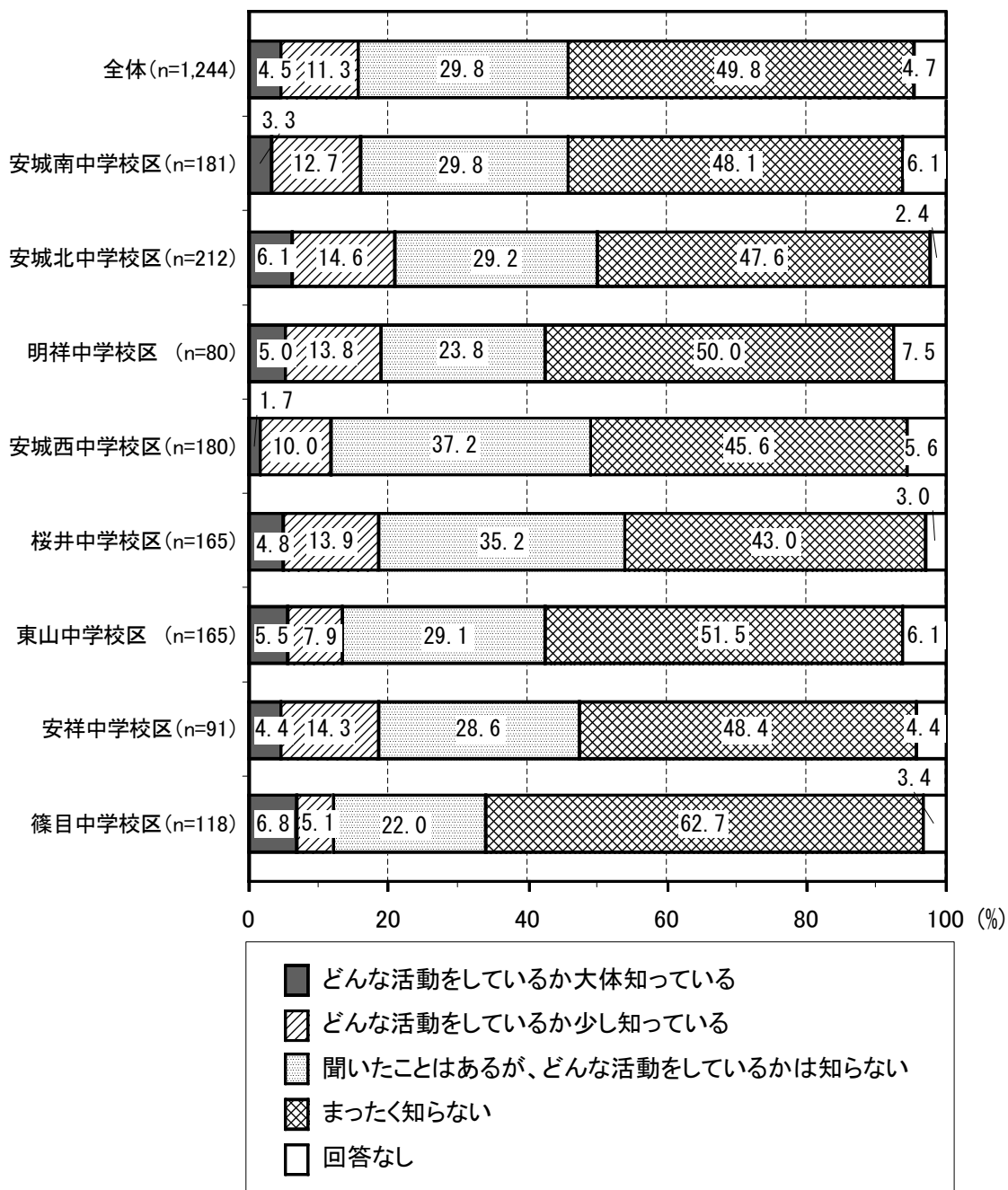
- 「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では81.6%、30歳代で70.6%を占めています。
- 逆に、年齢が高くなるほど認知度が高まっていく傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、65歳～74歳の前期高齢者で25.4%を占め最も多くなっています（図6-2-2）。

図6-2-2 年齢別「地区社会福祉協議会の認知度」



○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（62.7%）を占め目立って多くなっています。
逆に、桜井中学校区（43.0%）で少なくなっています（図 6-2-3）。

図 6-2-3 中学校区別「地区社会福祉協議会の認知度」



(3) 地域包括支援センターの認知度 (問 36)

問 36 市内8中学校区ごとに、地域包括支援センターが高齢者介護の相談機関としてありますが、どの程度ご存知ですか。(〇は1つだけ)

要点

地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」(6.4%)と「どんな活動をしているか少し知っている」(14.1%)を合わせると20.5%を占めています。

全体

○地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は6.4%と少ないですが、「どんな活動をしているか少し知っている」(14.1%)を合わせると20.5%を占めています。社会福祉協議会よりは若干認知度が低いですが、地区社会福祉協議会よりは認知度が高くなっています。

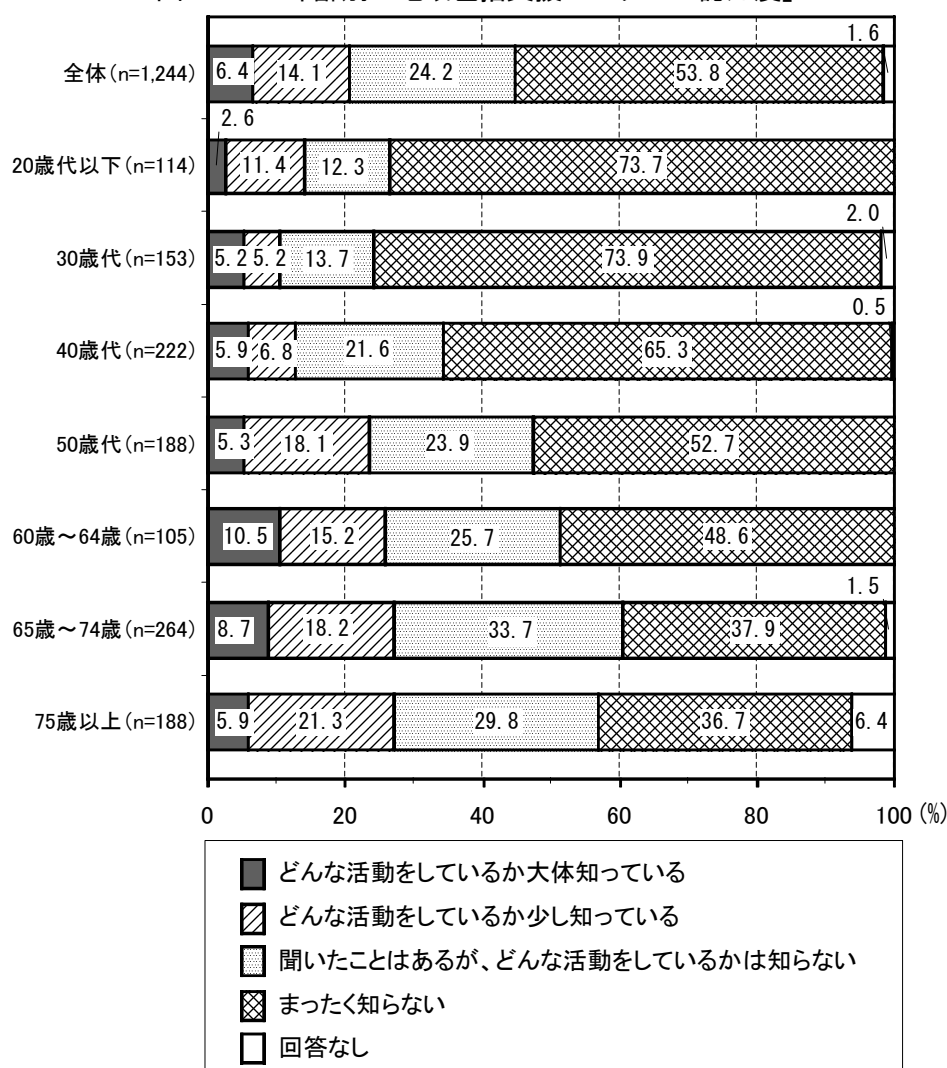
○これに、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」(24.2%)を加えると44.7%になりますが、「まったく知らない」(53.8%)を下回る結果になっています。(図6-3-1)。

年齢別

○「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では73.7%、30歳代で73.9%を占めています。

○逆に、年齢が高くなるほど認知度が高まっていく傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、75歳以上の後期高齢者で27.2%を占め最も多くなっています(図6-3-1)。

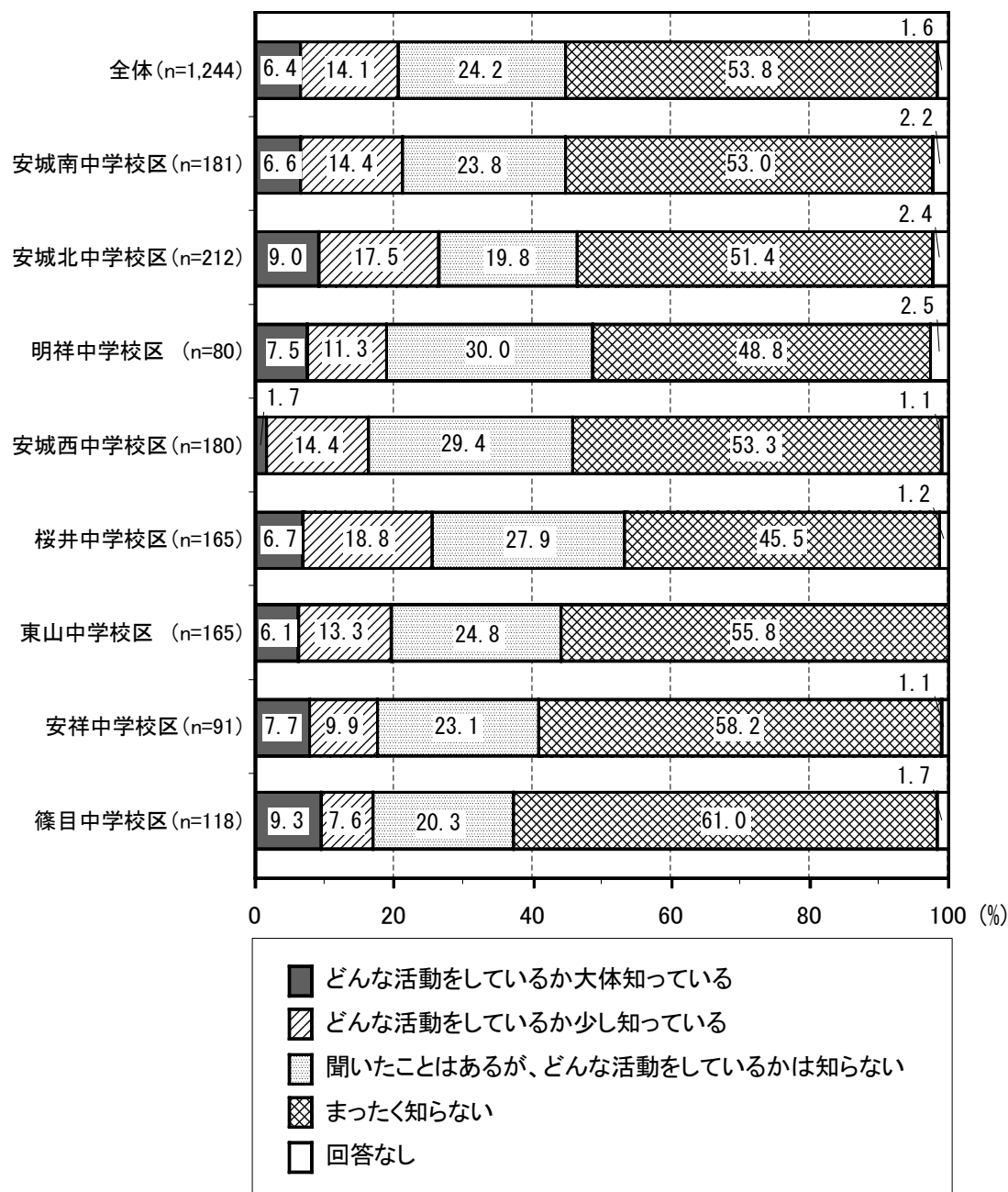
図6-3-1 年齢別「地域包括支援センターの認知度」



○地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、安城北中学校区（26.5%）と桜井中学校区（25.5%）で多くなっています。

○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（61.0%）で多くなっています（図 6-3-2）。

図 6-3-2 中学校区別「地域包括支援センターの認知度」



7 今後の行政等による地域福祉施策について

(1) 今後、優先すべき地域福祉関連施策（問 37）

問 37 今後、市は、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか。
（○は2つまで）

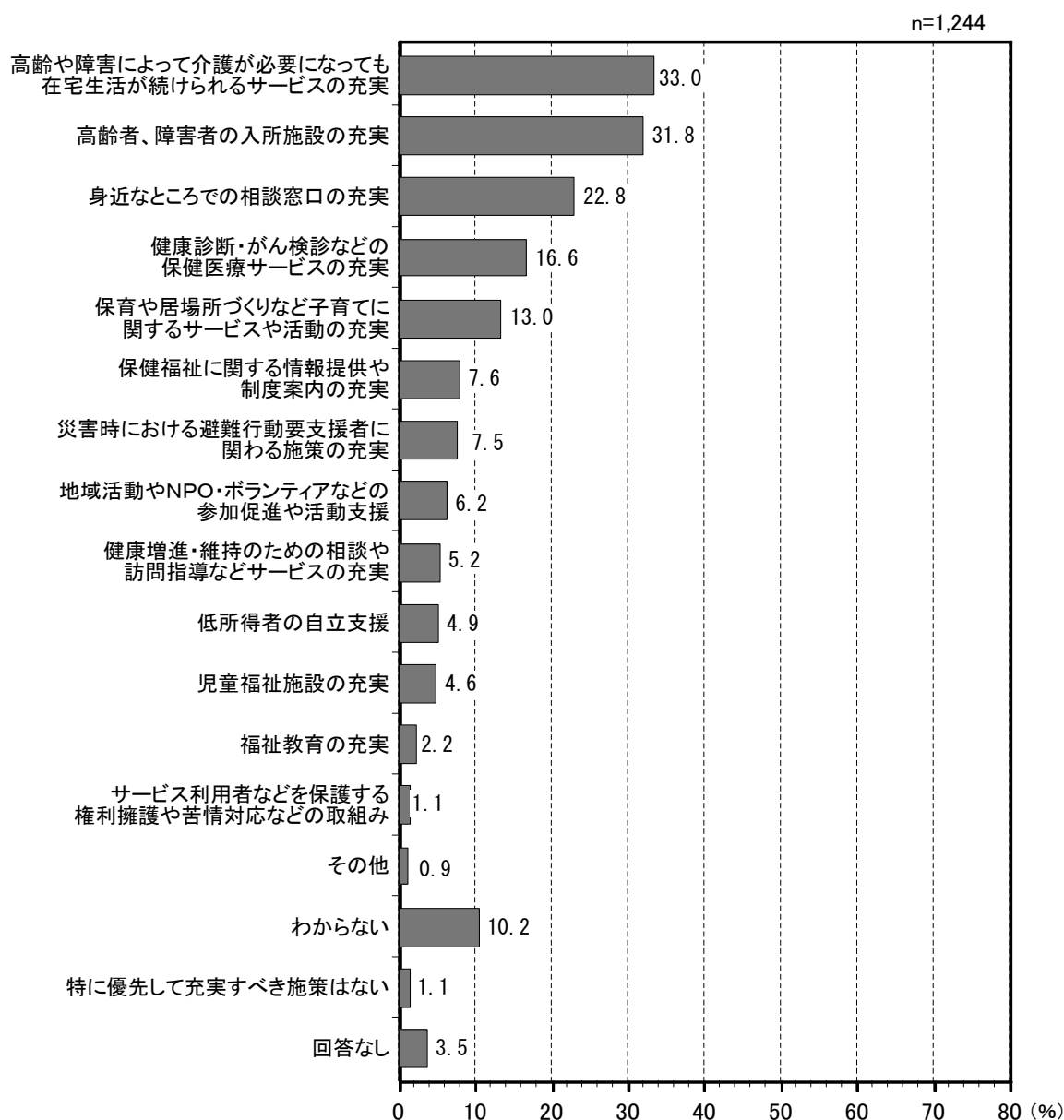
要点

「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」（33.0%）の割合が最も多く、次いで「高齢者、障害者の入所施設の充実」（31.8%）、「身近なところでの相談窓口の充実」（22.8%）が多くなっています。

全体

○「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」の割合が 33.0%と最も多く、次いで「高齢者、障害者の入所施設の充実」（31.8%）、「身近なところでの相談窓口の充実」（22.8%）、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」（16.6%）、「保育や居場所づくりなど子育てに関するサービスや活動の充実」（13.0%）の順で多くなっています（図 7-1-1）。

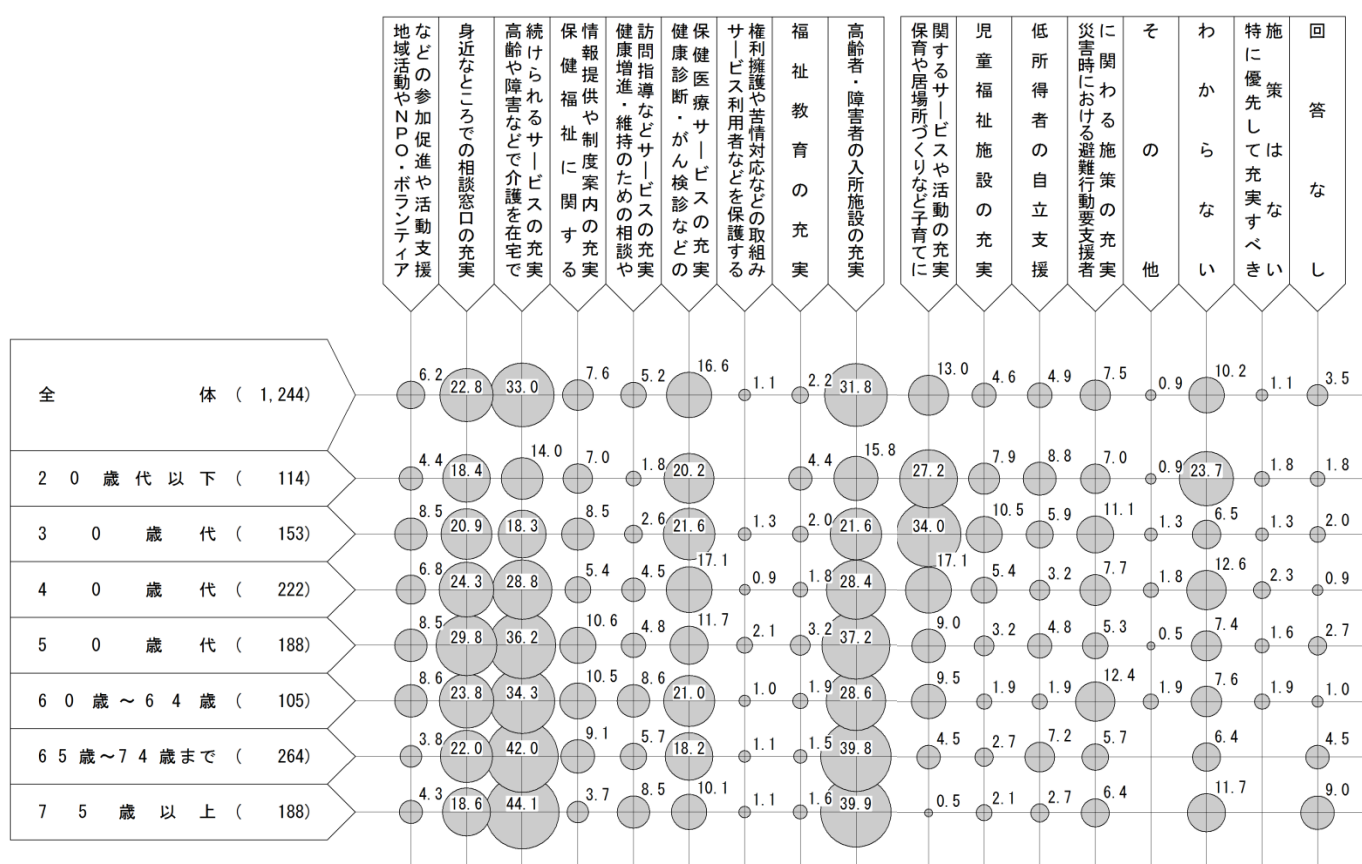
図 7-1-1 「今後、優先すべき地域福祉関連施策」



年齢別

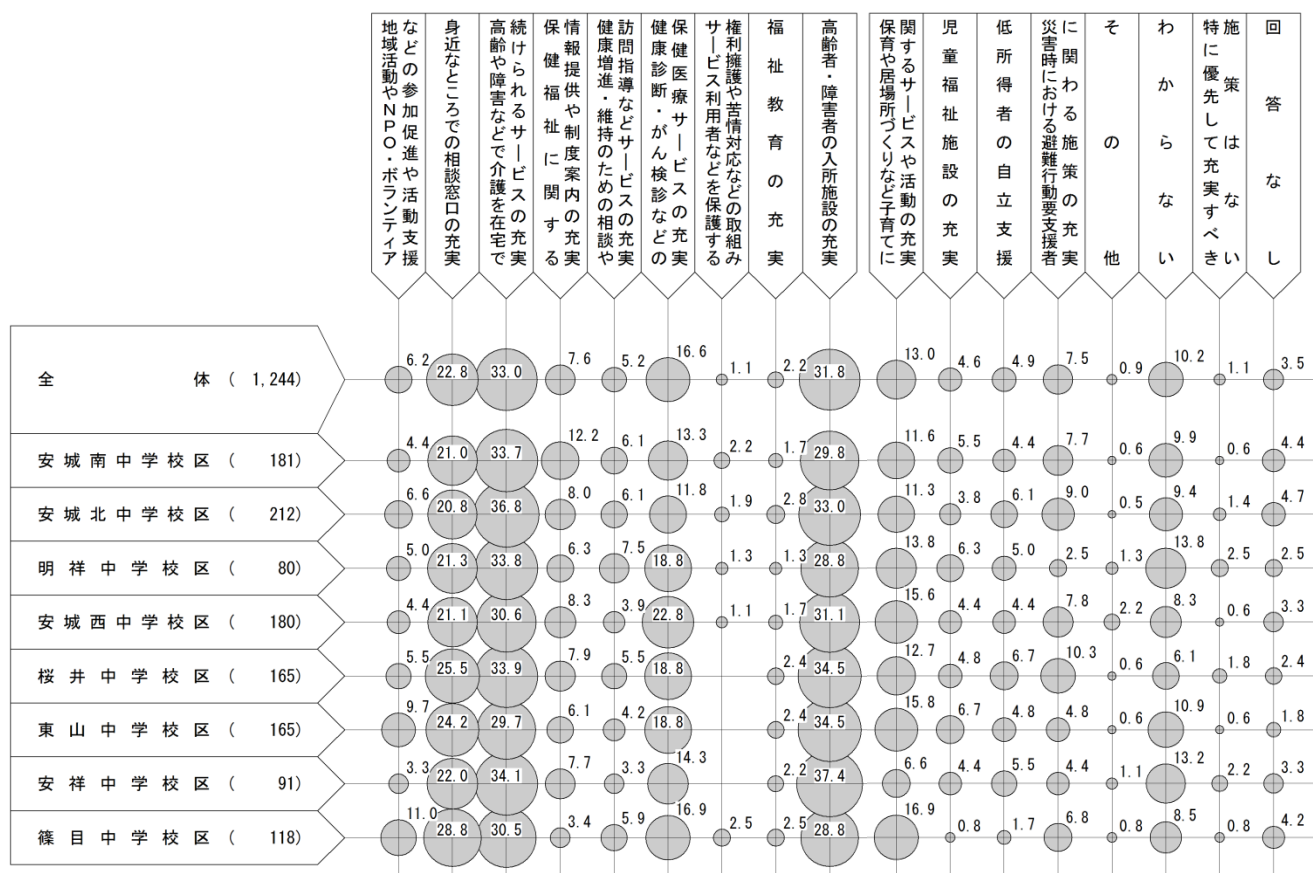
- 「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」の割合は、当事者にあたる75歳以上（44.1%）や65歳～74歳といった高齢者層で多くなっています。「高齢者、障害者の入所施設の充実」の割合は、当事者にあたる高齢者層に加えて、親が要支援・要介護になる可能性が高い50歳代（37.2%）においても若干多くなっています。
- 「身近なところでの相談窓口の充実」の割合についても親が要支援・要介護になる可能性が高い50歳代（29.8%）で若干多くなっています。
- 4番目に割合の多い「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」については、30歳代（21.6%）で若干多くなっています
- 5番目に多い「保育や居場所づくりなど、子育てに関するサービスや活動の充実」の割合は、30歳代（34.0%）と20歳代以下（27.2%）で多くなっています（図7-1-2）。

図7-1-2 年齢別「今後、優先すべき地域福祉関連施策」



- 全般的に大きな差異はみられませんが、「高齢者、障害者の入所施設の充実」の割合は、安祥中学校区（37.4%）で若干多くなっています。
- 「身近なところでの相談窓口の充実」の割合は篠目中学校区（28.8%）で、また、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」の割合は安城西中学校区（22.8%）で若干多くなっています（図 7-1-3）。

図 7-1-3 中学校区別「今後、優先すべき地域福祉関連施策」



調査票

安城市地域福祉計画策定のための市民アンケート調査

～アンケート調査ご協力をお願い～

市民のみなさまには、日ごろから市政に関してご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

安城市では、平成 16 年度に「第 1 次 安城市地域福祉計画」を策定し、地域のみなさまが主体となってお互いの助け合いによる福祉のまちづくりをめざし、みんなが進んで参加できる地域活動を進めてきました。その後、既存の取り組みに加え、地域における新たな課題に対する取り組みを進めるため、平成 20 年度に「第 2 次 安城市地域福祉計画」そして、平成 25 年度に「第 3 次 安城市地域福祉計画」を策定しました。

計画策定後、地域を取り巻く社会状況や市民のみなさまの日常生活における課題も変化しており、また、第 3 次計画が期間満了となることに伴い、計画の見直しを進めているところです。

この「市民アンケート調査」は、計画の見直しにあたり、市民のみなさまにご意見をいただき、計画策定のための貴重な資料として使わせていただくために実施するものです。

調査対象は 18 歳以上の市民を対象とし、実際の年齢構成を勘案しつつ 3,000 人の方を無作為に選ばせていただき、実施することにいたしました。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、上記趣旨をご理解の上、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

このアンケートの調査結果は、すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されたりすることは決してありません。また、アンケート目的以外には使用しませんので、安心して率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 11 月

安城市長 神 谷 学

ご記入にあたってのお願い

□ご回答は、あて名のご本人にお願いしますが、ご本人が健康等の理由からご記入するのが難しい場合は、ご家族の方や一緒にお住まいの方がご本人と相談して記入していただいても構いません。

□ご回答は、あてはまる番号を、指定の数だけ○で囲んでください。また、記入するものについては、() 内に記入してください。

□記入がお済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れ、12月6日（水）までにポストに投函してください。（切手は不要です。）

□このアンケートについてご不明な点やご質問などがございましたら、以下までお問い合わせください。

安城市役所 福祉部 社会福祉課 社会福祉係
電話：0566-71-2262（直通）

あなた自身やご家族のことについて

問 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 2 あなたの年齢についてお答えください。(平成29年10月1日現在の満年齢)
(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 18歳から29歳まで | 2. 30歳から39歳まで |
| 3. 40歳から49歳まで | 4. 50歳から59歳まで |
| 5. 60歳から64歳まで | 6. 65歳から69歳まで |
| 7. 70歳から74歳まで | 8. 75歳から79歳まで |
| 9. 80歳以上 | |

問 3 あなたのお仕事についてお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 自営業 | 2. 会社員・団体職員(常勤) |
| 3. 公務員(常勤) | 4. パート・アルバイト(学生を除く) |
| 5. 派遣従業員 | 6. 家事専業 |
| 7. 無職 | 8. 学生 |
| 9. その他() | |

問 4 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 4. 結婚したことがない |

問 5 現在のあなたの世帯に関する以下の(1)～(3)の事項についてお答えください。

(1) あなたと同居している人は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ)

●あなた自身を含めた同居人の人数

人 ※あなたお1人だけの場合は、「1」を記入してください。

(2) あなたの世帯では、どのような方が同居されていますか、(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 2. 小学生 |
| 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 大学生・大学院生・専門学校生 | 6. 65～74歳の高齢者 |
| 7. 75歳以上の高齢者 | 8. 1～7のような同居人はいない(単身世帯を含む) |

(3) あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らしの世帯 | 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 二世帯世帯(親と子) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫) |
| 5. 兄弟や親戚と同居 | 6. 友人や知人と同居 |
| 7. その他() | |

問6 あなたの世帯全体の年収（年金を含む。税金や社保税金などを引く前の総支給額。）はどのくらいですか。（現在お住まいの世帯でお答えください。）（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100万円以上～200万円未満 |
| 3. 200万円以上～300万円未満 | 4. 300万円以上～500万円未満 |
| 5. 500万円以上～700万円未満 | 6. 700万円以上～1,000万円未満 |
| 7. 1,000万円以上 | |

問7 あなたの住まいについてお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | 2. 持ち家（マンションなど集合住宅） |
| 3. 借家・賃貸住宅（一戸建て） | 4. 借家・賃貸住宅（マンションなど集合住宅） |
| 5. 社宅・官舎・寮 | 6. その他（ ） |

問8 あなたは安城市にどのくらいお住まいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上～3年未満 | 3. 3年以上～5年未満 |
| 4. 5年以上～10年未満 | 5. 10年以上～20年未満 | 6. 20年以上～30年未満 |
| 7. 30年以上 | | |

問9 あなたのお住まいの中学校区をお答えください。（○は1つだけ）
わからない方は、町名を記入してください。

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 安城南中学校区 | 2. 安城北中学校区 | 3. 明祥中学校区 |
| 4. 安城西中学校区 | 5. 桜井中学校区 | 6. 東山中学校区 |
| 7. 安祥中学校区 | 8. 篠目中学校区 | 9. わからない（町名： ） |

福祉に関する意識について

問10 現在のあなたと福祉との主な関わりは次のどれですか。（○は1つだけ）

- | | |
|--|-----------|
| 1. 福祉関係の事業所で仕事をしている | |
| 2. ボランティアまたはNPO（特定非営利活動法人）活動をしている | |
| 3. 地域で福祉活動をしている（町内会の役員や町内福祉委員会委員、子ども会等も含む） | |
| 4. 福祉サービスを利用している | |
| 5. 家族の介護等をしている | 6. 関わりはない |
| 7. その他（ ） | |

問11 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。
（あてはまるものすべてに○・ない場合は8に○）

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 健康づくりについての情報 | 2. 子育てについての情報 |
| 3. 高齢者についてのサービス情報 | 4. 障害者（児）についてのサービス情報 |
| 5. ボランティアやNPOなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報 | |
| 6. 生きがいづくり（講座、教室、サークル活動など）についての情報 | |
| 7. その他（ ） | |
| 8. 今は特にない | |

問12 あなたは、現在、福祉に関する情報（問 11 の選択肢参照）がどの程度入ってきているとお考えですか。（○は 1 つだけ）

1. 十分入ってきている
2. まあまあ入ってきている
3. あまり入ってこない
4. 全く入ってこない
5. わからない

問13 あなたは、福祉に関する必要な情報（問11の選択肢参照）をどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト
2. 社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト
3. 地区社会福祉協議会の広報紙
4. 市役所（支所）の窓口
5. 社会福祉協議会の窓口
6. 地域包括支援センター
7. 福祉施設
8. 福祉サービス事業所
9. 町内会の回覧板
10. 民生委員・児童委員
11. 新聞・雑誌
12. テレビ・ラジオ
13. 友人や近所の方
14. インターネット（ネット検索情報）
15. パソコンやスマホのメール
16. SNS（フェイスブックやLINE など）
17. その他（ ）
18. 特に福祉に関する情報を得ていない

問14 あなたにとって、福祉に関する情報（問 11 の選択肢参照）をより得やすくするためには、どの情報発信を充実してほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト
2. 社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト
3. 地区社会福祉協議会の広報紙
4. 市役所（支所）の窓口
5. 社会福祉協議会の窓口
6. 地域包括支援センター
7. 福祉施設
8. 福祉サービス事業所
9. 町内会の回覧板
10. 民生委員・児童委員
11. 新聞・雑誌
12. テレビ・ラジオ
13. 友人や近所の方
14. インターネット（ネット検索情報）
15. パソコンやスマホのメール
16. SNS（フェイスブックやLINE など）
17. その他（ ）
18. 特に福祉に関する情報を得ていない

あなたの日常生活、将来の暮らしについて

問15 あなたは、地域での付き合い（近所づきあい）をどの程度していますか。
（○は1つだけ）

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. よく付き合っている | 2. ある程度付き合っている | 3. あまり付き合っていない |
| 4. 全く付き合っていない | 5. わからない | |

問16 地域での付き合い（近所づきあい）に満足していますか。（○は1つだけ）

- | | | | | |
|-------|---------|--------------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. どちらともいえない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|--------------|---------|-------|

問17 地域での付き合い（近所づきあい）は、どの程度が望ましいと思いますか。
（○は1つだけ）

- | |
|---|
| 1. 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う |
| 2. 気の合う住民の間で困ったときに助け合う |
| 3. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する |
| 4. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする |
| 5. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす |
| 6. 地域での付き合いは必要ない |
| 7. その他（具体的に： _____） |
| 8. わからない |

問18 あなたは、近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることがありますか。
（○は1つだけ）

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | → 【問19】へ |
|-------|-------|----------|

問18-1 問18で「1 ある」を選んだ人におたずねします。

①それは、どのような手伝いですか。（あてはまるものすべてに○・ない場合12に○）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 日頃の声かけ・見守り | 2. 話し相手 |
| 3. 買い物 | 4. ゴミ出しや掃除などの家事 |
| 5. 病院・学校などへの送り迎え | 6. 短時間の子どもの預かり |
| 7. 子育ての相談 | 8. 介護の相談 |
| 9. 関係機関の紹介（情報提供） | 10. 災害時などの緊急時の支援 |
| 11. その他（ _____） | |
| 12. 特にない | |

問19 近所の人とは、今後どの程度の付き合いをしていきたいと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. もっと付き合いを広げたい | 2. 今のままでよい |
| 3. できるなら付き合いは控えたい | |

問20 毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていますか。
(○は3つまで・ない場合は10に○)

1. 自分や家族の健康に関すること	2. 子育てに関すること
3. 介護に関すること	4. 自分や家族の仕事に関すること
5. お金（収入や家計）に関すること	6. 生きがいや将来に関すること
7. 近所付き合いに関すること	8. 災害に関すること
9. 地域の治安に関すること	10. 特にな
11. その他（	）

問21 10年後のあなたご自身やあなたの家族の状況を考えた場合、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていると思われますか。
(○は3つまで・ない場合は10に○)

1. 自分や家族の健康に関すること	2. 子育てに関すること
3. 介護に関すること	4. 自分や家族の仕事に関すること
5. お金（収入や家計）に関すること	6. 生きがいや将来に関すること
7. 近所付き合いに関すること	8. 災害に関すること
9. 地域の治安に関すること	10. 特にな
11. その他（	）

問22 毎日の暮らしの中で困ったり不安を感じたときに、家族や親族以外では、誰に相談しますか。（あてはまるものすべてに○・不明の場合は14に○）

1. 民生委員・児童委員	2. 町内会の役員
3. 近所の人	4. 知人・友人
5. 職場の同僚・上司	6. 行政（市役所など）
7. 学校や保育所など	8. 医療機関
9. 警察	10. 社会福祉協議会
11. 福祉サービス事業所	12. ボランティア・NPOなど
13. その他（	）
14. どこに相談したらよいかわからない	

問23 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。（○は3つまで・ない場合は12に○）

1. 日頃の声かけ・見守り	2. 話し相手
3. 買い物	4. ゴミ出しや掃除などの家事
5. 病院・学校などへの送り迎え	6. 短時間の子どもの預かり
7. 子育ての相談	8. 介護の相談
9. 関係機関の紹介（情報提供）	10. 災害時などの緊急時の支援
11. その他（	）
12. 特にな	

問24 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、A欄に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。

(○は3つまで・ない場合は12.に○)

また、A欄で○をつけた事項は、地域のどのような範囲で支援してもらうことがあなたにとって気兼ね等がないですか(B欄に回答)。

A欄: あなた自身やあなたのご家族が、 介護や病気、子育てなどで困った時、 地域の人たちに支援してほしい事項 (○は3つまで)	※○をつけた項目については、 B欄も回答	B欄: 地域のどのような範囲で支援して もらうことがあなたにとって気 兼ね等がないか。(下の選択肢か ら1つ選んでその番号を記入)
1. 日頃の声かけ・見守り	⇒	
2. 話し相手	⇒	
3. 買い物	⇒	
4. ゴミ出しや掃除などの家事	⇒	
5. 病院・学校などへの送り迎え	⇒	
6. 短時間の子どもの預かり	⇒	
7. 子育ての相談	⇒	
8. 介護の相談	⇒	
9. 関係機関の紹介(情報提供)	⇒	
10. 災害時などの緊急時の支援	⇒	
11. その他()	⇒	
12. 特になし		



選択肢
1. 向こう三軒両隣の範囲
2. 町内会の班・組の範囲
3. 町内会の範囲
4. 地区社協(概ね中学校区)の範囲
5. 安城市域全体の範囲

問25 困ったときに頼りになる(悩みを相談したり助けてと言ったりできる)知人・友人はいいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つ)

(1) お住まいの地域・ご近所

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

(2) 市内

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

(3) 市外

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

地域活動、ボランティア活動について

問26 この1年間で、あなたは、防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に参加しましたか。
(○は1つだけ)

1. ほとんど参加してきた 2. たまに参加してきた 3. あまり参加していない

4. 参加したことがない → 【問27】へ

問26-1 問26で「1 必ず参加する」「2 ほとんど参加する」「3 たまに参加する」のいずれかを選んだ人におたずねします。

●どの活動団体の行事などに参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 町内会 | 2. 町内福祉委員会 |
| 3. 子ども会 | 4. 学校・PTA |
| 5. 青年団 | 6. 消防団 |
| 7. 老人クラブ | 8. ボランティアグループ |
| 9. 地区社会福祉協議会・福祉センター | |
| 10. 公民館の行事 | 11. 福祉サービス事業所 |
| 12. JA、企業 | |
| 13. その他 () | |

問27 現在、あなたは、次の(ア)～(サ)のような地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に関わっていますか。また、今後関わっていきたいですか。(ア)～(サ)の項目それぞれについて、1～6の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	選択肢 (※該当する1～6の番号に○印)					
	現在参加している		これまで参加したことがあるが、今はやめている		これまで参加したことはない。	
	今後もしも続けていきたい	今後はやめたい	今後また関わってみたい	今後もしも関わるつもりはない	今後には関わってみたい	今後もしも関わるつもりはない
(ア) 防火・防災	1	2	3	4	5	6
(イ) 防犯・交通安全	1	2	3	4	5	6
(ウ) 子育ての支援や子どもの見守り活動	1	2	3	4	5	6
(エ) 福祉施設・医療機関でのボランティア活動	1	2	3	4	5	6
(オ) 障害者の支援	1	2	3	4	5	6
(カ) 高齢者介護の支援(見守り・サロン活動等)	1	2	3	4	5	6
(キ) 家族介護をしている人への支援	1	2	3	4	5	6

	選択肢（※該当する1～6の番号に○印）					
	現在参加している		これまで参加したことがあるが、今はやめている		これまで参加したことはない。	
	今後も続けていきたい	今後はやめたい	今後また関わってみたい	今後もうまく関わることができない	今後は関わってみたい	今後もうまく関わることができない
(ク)健康づくり	1	2	3	4	5	6
(ケ)生活困窮者に関する活動	1	2	3	4	5	6
(コ)子どもの貧困に関する活動	1	2	3	4	5	6
(サ)若者のひきこもりの問題	1	2	3	4	5	6

問27-1 （問27の（ア）～（サ）において2、4、6のいずれかを1つでも○をつけた方のみご回答ください）

●今後どのような条件が整えば、町内会等による地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. 時間にゆとりがあること | 2. 収入・家計にゆとりがあること |
| 3. 家族の理解があること | 4. 自分が健康であること |
| 5. 共に活動する仲間や友人がいること | 6. 生きがいや充実感が得られること |
| 7. 趣味や特技が生かされること | 8. 誰にでも簡単にできること |
| 9. 家の近くでできること | 10. わずかな時間（2～3時間）でできること |
| 11. 活動に必要なお金の支援があること（例えば活動グループに対する助成金など） | |
| 12. ボランティア講座など、知識や技術を学べる機会や体験の機会があること | |
| 13. 活動に必要なきっかけや情報が得られること | |
| 14. その他（ ） | |

問28 今後のあなたの暮らしや今後予想される地域社会の状況を踏まえると、今後、どのような地域の福祉活動（町内会等の地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動）を充実していくべきと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 防火・防災 | 2. 防犯・交通安全 |
| 3. 子育ての支援や子どもの見守り活動 | |
| 4. 福祉施設・医療機関でのボランティア活動 | 5. 障害者の支援 |
| 6. 高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等） | 7. 家族介護をしている人への支援 |
| 8. 健康づくり | |
| 9. 生活困窮者に関する活動 | 10. 子どもの貧困に関する活動 |
| 11. 若者のひきこもりの問題 | 12. わからない |
| 13. その他（具体的に ） | |

問29 あなたが地域で福祉活動をする場合、どれくらいの対価が得られれば活動したいと思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|--|
| 1. 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する |
| 2. 最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する |
| 3. ワンコイン（500円）程度の報酬が得られれば活動する |
| 4. 野菜やおすそ分け程度の“気持ち”があれば活動する |
| 5. 特に対価は求めない |

問30 あなたが地域での福祉活動を依頼する場合、どれくらいの対価であれば依頼したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 活動者が生活できるくらいの十分な対価を支払ってでも依頼する。
2. 最低賃金程度(愛知県の場合、時間額 871 円)であれば支払って依頼する
3. ワンコイン(500円)程度であれば支払って依頼する
4. 野菜やおすそ分け程度であれば依頼する
5. 対価の支払いがあるのであれば依頼しない

問31 あなたは、定年退職後などの高齢期を主にどのように過ごしたいとお考えですか。(○は3つまで) ※既に高齢期を迎えておられる方もご回答ください。

1. 経済的に自立するために、現役同様に働きたい
2. 収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい
3. 趣味や余暇を楽しみたい
4. 知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい
5. 地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい
6. 特に何もしないでのんびりと過ごしたい
7. その他()
8. わからない

町内福祉委員会について

◆町内福祉委員会◆

安城市では、町内会を単位として町内福祉委員会という組織が立ち上げられ、住民の皆さんによる福祉活動が進められています。

(活動例)

- ・ ふれあいいきいきサロン、世代間交流事業の実施
- ・ 福祉だよりの発行
- ・ 福祉や介護などに関する勉強会などの開催
- ・ 要援護者への支援
- ・ 見守り活動

など

問32 町内福祉委員会についてどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

1. 町内福祉委員会の活動内容を知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない
3. 町内福祉委員会について知らない

問 32-1 問 32 で「1 町内福祉委員会の活動内容を知っている」を選んだ人におたずねします。

①町内福祉委員会の活動についてどのくらいかかわっていますか。(○は1つだけ)

1. 積極的に活動している
2. 依頼があれば活動している
3. 行事などには参加している
4. ほとんどかかわっていない

問33 今後、町内福祉委員会による活動に参加する機会があれば、参加したいと思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 参加したい | 2. できれば参加したい |
| 3. 参加したくない | 4. わからない |

問 33-1 問 33 で「3 参加したくない」を選んだ人におたずねします。

①参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 興味や関心がないから | 2. 機会がないから |
| 3. 自分の生活で精一杯だから | 4. 仕事が忙しくて余裕がないから |
| 5. やりたい活動がないから | 6. 自分の趣味や余暇活動を優先したいから |
| 7. 現在の活動内容に不満だから | 8. 活動の内容や方法がわからないから |
| 9. その他 () | |

社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について

問34 安城市社会福祉協議会をご存知ですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. どんな活動をしているか大体知っている |
| 2. どんな活動をしているか少し知っている |
| 3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない |
| 4. まったく知らない |

◆社会福祉協議会とは◆

社会福祉法に基づいて地域福祉推進の中核としての役割を担う民間の団体です。

各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。

問35 市内8中学校区ごとに、地区社会福祉協議会（地区社協）が地域福祉の推進組織としてありますが、どの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. どんな活動をしているか大体知っている |
| 2. どんな活動をしているか少し知っている |
| 3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない |
| 4. まったく知らない |

◆地区社会福祉協議会とは◆

地域住民の福祉活動への参加や福祉のまちづくりを進めるため、安城市においては、概ね中学校区を単位として設立されています。事務局を福祉センターや公民館に置き、地域の福祉活動にかかわる方々を構成員として、町内福祉委員会の活動の支援をはじめ、地区内における福祉に関する事業や講座、相談などを行っています。